

6.研究・教育環境

6.1 研究費：平成 10～11 年度(1998～1999 年度)の状況

第 2 章では、研究所全体の各研究費の予算概況を一括して示したが、ここでは主要な研究所経費である特別事業費、共同研究費などについて具体的に示す。

特別事業費の研究題目および配分額を付表 6.1 に示す。

特定共同研究の研究担当者、プロジェクト名および配分額を付表 6.2 に示す。

一般共同研究の研究担当者、研究課題および配分額を付表 6.3 に示す。

研究集会(特定)の代表者、研究集会名、配分額などを付表 6.4 に示す。

研究集会(一般)の代表者、研究集会名、配分額を付表 6.5 に示す。

教育改善推進費(学長裁量費)の研究代表者、プロジェクト課題、採択額を付表 6.6 に示す。

リーダーシップ支援経費の配分内訳を付表 6.7 に示す。

6.2 科研費・公募研究費

第 2 章にも示されるように科研費などが研究活動の活発化を支えている。ここでは科研費の平成 10～11 年度の新規申請と採択状況を付表 6.8 に、最近 5 年間の科学研究費補助金の採択課題(新規・分担)を付表 6.9 に示す。申請数は教官一人当たり約 1 件で、採択率は新規課題全採択率を上回っている。研究分担を数多く行っている教官も見受けられる。

財団などによる公募研究費の採択課題を付表 6.10 に示す。

6.3 研究設備

本研究所では、実験・観測のための大型設備をはじめとする多数の設備が稼働している。付表

6.11 に設備の一覧をしめす。これらの大型研究設備等を用いた最近の共同研究の一覧を付表 6.12 に示した。研究成果については第 7 章「研究活動」及び研究業績を参照していただきたい。

設備の中には 20 年以上経過しているものもあり、当時は最先端のものであったとしても各種技術が急速に進展している現在においては必ずしも最新鋭の分析能力があるわけではない。本所においては災害の多様化に応じた高知能化した装置の要求をすすめている。

6.4 図書室(資料室)

当研究所は、正規の図書室はなく、資料室をもって図書室と通称している。国内刊行書および国内学術雑誌は、当研究所の共通経費で購入されている。外国雑誌については、所内有志研究者の校費拠出(分野・領域単位)による共同購入の形態をとっている。平成 10 年度では、21 分野・領域が、計 12,537,250 円を負担した。この外国雑誌購入形態に関しては、抜本的な見直しを行い、平成 11 年度から共通経費による購入に移行することとなり、外国雑誌の共通経費総額は 8065,424 円であった。平成 10・11 年度の図書室(資料室)利用状況を付表 6.13 に示す。図書室の日常的業務は、総務課研究助成掛の管理下で、1 名の非常勤職員によって行われているが、平成 12 年度より宇治地区の 5 研究所 1 センターの事務統合に呼応して、各研究所・センターで行っていた図書業務についても一元化され、宇治地区研究所共通図書室から京都大学附属図書館宇治分館として新たに発足することとなった。所蔵図書および資料等の移動と宇治分館の改装工事を終了した平成 12 年 9 月、防災研究所図書室(資料室)は宇治分館に完全統合された。

6.5 情報システム

京都大学では平成7年度にATM高速情報ネットワークシステム(KUINS-II/ATM)が導入され、平成9年度からは宇治キャンパス-吉田本学間の通信速度が1.8GBPS×2へ改善された。このKUINS-II/ATMの利用に関しては、平成9年度に、各ハブノードにATM専用ルータ、各研究分野・領域にスイッチングハブを導入し、100baseの木構造のネットワークの構築を順次すすめ、研究に活用している。また、遠隔研究支援システムの導入により、宇治-吉田間の中規模テレビ会議が可能となった。更に、平成8年10月から運用が開始された、スペース・コラボレーション・システム(SCS)事業により、「衛星通信による映像交換を中心とした大学間ネットワーク」の局が宇治に設けられ、大学間での講義、研究会、講演会等に広く利用されている。

このような情報ネットワーク化が進むにつれて、電子メールなどの通信だけでなくホームページなどを用いた情報発信が急速に進展している。特に自然災害調査研究などの速報性のある情報を研究所のホームページに掲載することによって、研究者間の情報交換のみならず、広く一般への情報公開、減災のための啓蒙等につながる情報発信の新たな手段として、活用されつつある。

このような有効活用が図られている反面、不正アクセスに対する対策は立ち遅れている。外部からのシステム攻撃に対して、情報伝達・公開の手段を維持するために各研究室のサーバー管理者は時として多大な負担を強いられている。このような管理者間の互助体制もあるけれども、実際には被害にあった個々人の多大なる労力によって解決してきており、今後のインターネットのさらなる普及と高度化及び防災研究所の使命に鑑みて、情報発信基地としてのシステムの維持管理は、ボランティアワークに頼るだけで

ない体制の構築が必要と考えられる。

6.6 データベース

本研究所には自然災害に関係する数々のデータベースが構築されている。これらをまとめて付表6.14に示す。

6.7 研究支援組織

本研究所における最近5年間の研究支援組織の人員について付表6.15にまとめて示す。これらの研究支援の人員は、本研究所で行われている実験・観測、大型設備の維持管理、及び研究補助に不可欠である。

6.8 技術室

平成8年5月の改組で技術職員の独立した組織ができたが、平成10・11年度において宇治地区勤務者及び付属施設勤務者の勤務形態及び員数に変化はなかった。

平成10年5月、技術室はこれまで研究部門や研究センターで専任的に業務を行っていた技術職員は従来の枠を越え広く研究所全体の技術支援要請に対しても正式に応えることを表明した。これによって平成10・11年度は日々の定常業務を除いて35件及び37件の新たな技術支援要請に対応した。その支援要請には配属技術職員を持たない研究部門や研究センターからのものも当然含まれ、業務は比較的長期に及ぶものと短期に完了するものがあった。ただ付属施設勤務者を除く宇治地区技術職員は一カ所の部屋に集合していないため、全ての業務が技術室を通して支援要請されたかどうかは把握出来なかった。また技術支援要請の業務内容はこれまでの延長線上にあり従来の技術の範囲内であったと思わ

れる。しかし今後は高度な技術支援を目指すための施策が必要である。

技術室の運営については、平成 9 年 6 月以降技術室運営委員会で審議されている。それを受けた形で班長会議が具体的施策をたてている。技術室運営委員会は平成 10 年度 2 回、11 年度 1 回開催され、主として効率的技術支援体制問題、工作室の全所利用問題、平成 13 年度末の多数定年退職者後の補充問題等を検討してきた。支援体制問題ではまず支援要請者が「技術支援依頼票」を技術室長に提出し技術室が受諾可能かどうかを検討した後対応することとした。工作室の全所利用問題では防災研究所技術職員として計器開発・観測実験業務は欠かすことの出来ない業務分野という認識から全所利用実現に向け努力して行くことが確認された。技術職員の補充問題について今後は研究部門、研究センターの専任ではなく技術室として強化業務分野を明確にし要求することとしている。班長会議(班長、室長で構成)は平成 10・11 年度で計 15 回行われた。その中で平成 11 年度末には技術室職員の業務実績と効率化の資料に資するべく業務報告を提出することを義務づける方策を打ち出し 12 年度より実施することにした。これにより技術職員個々の業務内容の把握と適正化、効率化に向けた施策が取れるものと期待される。掛長会議(掛長、班長、室長で構成)は原則年 2 回開催し新年度活動方針、所内技術職員研修の実施計画、年度活動報告等を行い技術室の円滑な運営に協力を得ている。

技術室職員の日頃の自己研鑽に加えて技術室は年間を通じて種々の技術研修の機会を作っている。平成 10・11 年度においては所内技術職員研修を桜島火山活動センター、鳥取観測所において開催しそれぞれ 29 名と 26 名の参加があった。隔地観測所での研修は突発災害観測や野外観測の支援要請が生じた時迅速に対応出来るよ

う意識したものである。所内技術研修以外には京都大学総合技術部技術職員研修はもとより、全国規模の「技術研究会」、東京大学地震研究所職員研修会などにも一部技術職員が参加し技術発表を行っている。「技術研究会」では平成 10 年度に 1 名が発表及び投稿、東京大学地震研究所職員研修会では平成 11 年度に 3 名が発表するとともに 2 名が投稿を行った。

平成 10・11 年度の 4 班の活動をみると観測班は別として機器開発班および機器運転班は企画情報班に比べ日常の活動が低い。今後は研究部門、研究センターからの独立を早期に実現し、各班は協力して研究所全体の技術支援要請に応えなければならない。

6.9 遠隔地施設の研究環境

本研究所には災害観測のために遠隔地施設を保有しているが、研究の高度化に従って観測項目が複雑多様化し、定常観測項目が増加してきている。多くの遠隔地観測所においては、これらの業務を 1~2 名の職員で処理しなければならず、その労働は年々過重なものとなってきた。観測施設の維持・点検とデータ取得のためには、坑道内の作業や海上作業、噴火危険区域での作業など、危険を伴う作業を余儀なくされることもあり、1 名~少人数での業務には問題がある。付表 6.16 に遠隔地施設の人員配置を掲載した。

6.10 教育設備

大学院重点化により本研究所において指導をうける学生数が増加した現状において、本研究所の教育環境は、学生用研究室、講義室、教育用事務経費、教育担当事務員が十分に手当されていない点に置いて問題がある。平成 7 年度か

らの大学院生の在籍者数は第 5 章表 5.2.3 に掲載されており、大学院重点化以降の在籍者数は修士課程、博士後期課程合わせて約 150 名である。また、これも年々増加傾向にある留学生の受け入れに関して、照会に対する回答、受け入れ、宿舍、アパート探し、奨学金の申請などの事務的作業を実質的に教官が行わなければならないのが現状である。来日して日本の生活になれるまでの期間における住居などの問題については、国際交流会館おうばく分館が建てられ、いくぶんかは緩和されたが、今後の受け入れ留学生の増加に対しての対策を考える必要がある。

付表6.1 特別事業費配分一覧

平成10年度防災研経費

部門・センター	研究題目	配分額 (単位：千円)				備 考
		職員旅費	研究員等旅費	校費	合計	
総合防災研究部門	災害に対する「都市診断」科学の確率のための総合的研究	1,360	2,369	4,900	8,629	
地震災害研究部門	既設空間構造の耐震性能と計測方法に関する研究	1,333	1,931	3,500	6,764	
地盤災害研究部門	地盤災害メカニズムに関する研究	1,533	1,979	2,700	6,212	
水災害研究部門	流域一貫した総合型水象シミュレーションモデルの構築	1,107	1,979	2,800	5,886	
大気災害研究部門	異常気象時の待機境界層構造変化と大気災害に関する研究	682	931	4,200	5,813	
災害観測実験センター	災害環境の総合観測に関する研究	1,431	1,781	3,900	7,112	
地震予知研究センター	活断層深部及びその周辺の不均質構造の解明	653	0	1,300	1,953	
火山活動研究センター	火山体浅部の物理的状态と噴火様式に関する基礎的研究	1,257	1,676	1,000	3,933	
水資源研究センター		0	0	0	0	
巨大災害研究センター	市街地火災における風下側の気流性状に関する実験的研究	682	349	3,200	4,231	
小 計		10,038	12,995	27,500	50,533	
技術室		3,500	0	0	3,500	
事務部	研究費等旅費は備考3施設の運営協議会用	864	1,407	2,436	4,707	災害観測、火山活動 巨大災害
所長管理経費		0	0	4,200	4,200	
合 計		14,402	14,402	34,136	62,940	

平成10年度一般

部門・センター	研究題目	配分額 (単位：千円)				備 考
		職員旅費	研究員等旅費	校費	合計	
水資源研究センター	琵琶湖水資源水環境調査経費*	3,303	0	7,743	11,046	
合 計		3,303	0	7,743	11,046	

*11年度は研究所校費に繰り入れ

平成11年防災研経費

部門	研究題目	配分額(単位:千円)				備考
		職員旅費	研究員等旅費	校費	合計	
総合防災研究部門	災害に対する「都市診断」科学の確率のための総合的研究	1,516	1,851	4,485	7,852	
地震災害研究部門	構造物のヘルスマニタリング技術と補修技術の開発	1,350	1,488	3,449	6,287	
地盤災害研究部門	地盤災害メカニズムに関する研究	1,682	1,820	2,380	5,882	
水災害研究部門	流域一貫した総合型水象シミュレーションシステムの構築	1,178	1,547	3,358	6,083	
大気災害研究部門	大気災害をもたらす異常気象時の大気環境に関する研究	1,135	819	3,888	5,842	
災害観測実験センター	災害環境の総合観測に関する研究	1,270	1,256	4,507	7,033	
地震予知研究センター	活断層深部及びその周辺の不均質構造の解明	715	0	1,701	2,416	
火山活動研究センター	火山体浅部の物理的状態と噴火様式に関する基礎的研究	1,248	1,279	871	3,398	
水資源研究センター		0	0	0	0	
巨大災害研究センター	防災研究の社会貢献度向上に関する研究	1,206	3,317	5,108	9,631	
小計		11,300	13,377	29,747	54,424	
技術室		2,238	0	0	2,238	
事務部	研究員等旅費は備考3施設の運営協議会用	864	1,025	2,389	4,278	災害観測、火山活動
所長管理経費		0	0	2,000	2,000	巨大災害
合計		14,402	14,402	34,136	62,940	

付表6.2 特定共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費(円)	校費(円)	参加人数
10P-1	大規模崩壊の地質・地形特性の研究	千木良雅弘	諏訪 浩、 齋藤隆志、 横山康二	10	700,000	700,000	15
				11	700,000	600,000	
				計	1,400,000	1,300,000	
10P-2	ウォーターフロント施設-地盤系の耐震補強に関する研究	関口秀雄	三村 衛	10	600,000	700,000	11
				11	600,000	600,000	
				計	1,200,000	1,300,000	
10P-3	発展途上国の開発と防災に関する研究	河田恵昭	西上欽也、 林 泰一	10	700,000	300,000	11
				11	700,000	280,000	
				計	1,400,000	580,000	
11P-1	防災投資の費用便益分析法の課題と展望	多々納裕一	岡田憲夫、 亀田弘行、 萩原良巳	11	700,000	620,000	13
				12	700,000	500,000	
				計	1,400,000	1,120,000	
11P-2	豪雨による都市水害モデルの開発とその治水計画への応用	井上和也	中川 一、 戸田圭一、 立川康人	11	630,000	500,000	16
				12	630,000	400,000	
				計	1,260,000	900,000	
11P-3	局地的強風の全国的な調査研究	石川裕彦	植田洋匡、 桂 順治	11	700,000	700,000	16
				12	700,000	600,000	
				計	1,400,000	1,300,000	
12P-1	実験・観測・シミュレーションによる洪水時の河口部における流れの構造と底質の移動機構に関する研究	今本博健	関口秀雄、 山下隆男、 馬場康之、 加藤 茂	12	700,000	400,000	12
				13			
				計	700,000	400,000	
12P-2	災害監視・解析のためのリモートセンシングの応用に関する研究	寶 馨	立川康人、 戸田圭一、 間瀬 肇、 中川 一、	12	700,000	400,000	6
				13			
				計	700,000	400,000	
12P-3	重力流ダイナミクスモデルと暴風雨、火砕流予測への応用	植田洋匡	石川裕彦、 林 泰一、 丸山 敬、 石原和弘	12	700,000	400,000	12
				13			
				計	700,000	400,000	

付表6.3 一般共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費	校費	参加数
10G-1	表層地質の地震動への影響の定量化に関する研究	工藤一嘉(東大地震研究所)	入倉孝次郎	10	700,000	750,000	6
10G-2	西南日本全域を覆う重力データベースの完成と東北地域のテクトニクス	志知龍一(名古屋大学理学部)	安藤雅孝	10	700,000	570,000	5
10G-3	土砂の流動化機構に関する研究	三森利昭(林野庁森林総合研究所)	佐々恭二	10	700,000	750,000	9
10G-4	高潮と波浪の干渉及び同時生起確率に関する研究	高山知司(京大防災研究所)	井上和也、 間瀬 肇、 山下隆男、 他2名	10	700,000	700,000	12
10G-5	地下水環境汚染の実態調査と対策に関する研究	岡 太郎(京大防災研究所)		10	530,000	750,000	10
10G-6	利水安全度を考慮した水資源管理意思決定支援システムに関する研究	河村 明(九州大学工学部)	小尻利治	10	500,000	340,000	3
10G-7	田辺・中島高潮観測塔を援用した単部湾の赤潮発生予測に関する研究	田中祐志(近畿大学農学部、 東京水産大学水産学部)	芹沢重厚	10	700,000	750,000	5
10G-8	メガ・シティーの拡大に伴う都市気象変化に関する研究	植田洋匡(京大防災研究所)		10	700,000	750,000	13
10G-9	リスク下の人間行動の分析と制御方法に関する研究	喜多秀行(鳥取大学工学部)	多々納裕一	10	700,000	560,000	9
10G-10	地震動の早期情報伝達にむけた強震度計波形記録による地震の震源パラメータの自動推定	久家慶子(京都大学大学院理学研究科)	澤田純男	10	0	580,000	3
10G-11	沖縄トラフ周辺における群発地震発生領域形成メカニズムの解明	中村 衛(琉球大学理学部)	片尾 浩	10	700,000	700,000	7
10G-12	焼岳の土石流源である中尾火砕流の地下レーダと電磁気物性による分布調査	酒井英男(富山大学理学部)	澤田純男	10	470,000	520,000	4
10G-13	琵琶湖高潮時川流域の分布型陸面・流出結合モデルの開発と模型実験	陸 旻皎(長岡技術科学大学、 海洋科学技術センター地球)	中北英一、 寶 肇、 立川康人	10	700,000	750,000	8
10G-14	人間活動の場の総合作用としてみた都市における安全性の向上方策に関する研究	岡田憲夫(京都大学防災研究所)		10	410,000	69,000	7
11G-1	伊勢湾と湾岸都市域およびその周辺における大気微量成分の動態解明	福山 薫(三重大学生物資源学部)	岩嶋樹也	11	720,000	700,000	5
11G-2	絶対重力計相対重力計の併用による、桜島の火山活動に伴う山体内部の密度変化の検出	大久保修平(東京大学地震研究所)	山本圭吾	11	400,000	320,000	6
11G-3	1995年兵庫県南部地震震源域および周辺地域一帯の精密な重力異常図の作成公表	志知龍一(名古屋大学理学部)	中村佳重郎	11	740,000	570,000	7
11G-4	GISを活用した、中部山岳地域南部における土砂流出の研究	小口 高(東大空間情報科学研究センター)	千木良雅弘	11	700,000	700,000	12
11G-5	盆地における霧の発生および維持機構とその予知に関する研究	田中正昭(京大防災研究所)		11	730,000	700,000	8
11G-6	薩摩硫黄島のガス放出を伴うマグマ活動の観測	松島喜雄(工業技術院地質調査所)	井口正人	11	700,000	700,000	6
11G-7	海岸帯水層中の塩水の有効利用に関する研究	神野健二(九州大学工学部)	岡 太郎	11	520,000	640,000	7
11G-8	不均質な地殻構造における地震波伝播異常が強震動に与える影響のシミュレーション研究	吉村孝志(北海道教育大学教育学部)	岩田知孝	11	500,000	370,000	8
11G-9	海洋表層付近における大気-海洋相互作用の研究	塚本 修(岡山大学理学部)	芹沢重厚	11	730,000	700,000	11
11G-10	電波音波速隔探査機を利用した風時の大気境界層の構造に関する研究	林 泰一(京大防災研究所)		11	730,000	700,000	7
11G-11	地すべり移動機構と移動土塊の変形についての研究	新井場公德(自治省消防庁消防研究所)	末峯 章	11	700,000	700,000	7

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費	校費	参加数
11G-12	琵琶湖湖底上の法面緑化工材としての有効利用と降雨に対する侵食性の検討	深川良一(立命館大学理工学部)	中北英一	11	50,000	450,000	3
11G-13	活断層のセグメント構造の新しい評価手法の開発	伊藤久男(工業技術院地質調査所)	西上欽也	11	360,000	600,000	3
11G-14	風害発生時における乱流と作物のゆらぎ状態関係の観測	井上直人(信州大学農学部)	林 泰一	11	740,000	620,000	4
11G-15	大型鉄骨建屋の合理的耐震設計に関する研究	和田 章(東京工業大学応用セラミックス研究所)	中島正愛	11	730,000	700,000	10
11G-16	地震時の同時多発火災に対する消火活動戦略と消防水理整備に関する研究	山本幸司(名古屋工業大学社会開発工学科)	岡田憲夫	11	300,000	640,000	5
11G-17	粘性土地すべりと結晶片岩地すべりの発生機構に関する比較研究	松井英明(新潟大学積雪地域災害研究センター)	佐々恭二	11	730,000	700,000	15
12G-1	超稠密地殻変動観測網による火山体圧力源の解明	木股文昭(名古屋大学大学院理学研究科)	石原和弘	12	890,000	420,000	11
12G-2	淀川流域における自然-人間系洪水流出現象の共同集中観測と予測モデル開発	椎葉充晴(京都大学大学院工学研究科)	寶 馨	12	320,000	360,000	16
12G-3	都市域及びその周辺のバックグラウンド大気微量成分の動態解明	福山 薫(三重大学生物資源学部)	岩嶋樹也	12	840,000	710,000	5
12G-4	リモートセンシングと多種の観測法を用いた落葉広葉樹林の微気象と蒸発散量の季節変化に関する研究	戎 信宏(愛媛大学農学部)	田中賢治	12	760,000	650,000	4
12G-5	飛騨山脈周辺における応力場と内陸大地震に関する研究	川崎一朗(富山大学理学部)	伊藤 潔	12	780,000	650,000	6
12G-6	内陸地震の震源断層周辺の地震活動履歴解明	西田良平(鳥取大学工学部)	渡辺邦彦	12	520,000	260,000	6
12G-7	大気-海洋循環系モデルにおける波浪の影響に関する研究	安田孝志(岐阜大学大学院工学研究科)	加藤 茂	12	720,000	600,000	5
12G-8	流動性崩壊の発生・運動機構の研究	佐々恭二(京大防災研究所)		12	700,000	600,000	18
12G-9	山地斜面、河川系、湖沼、海洋を通じての物質輸送に関する環境・防災科学的研究	奥西一夫(京大防災研究所)		12	610,000	530,000	7
12G-10	人間活動に伴う地下水環境への影響に関する研究	杉尾 哲(宮崎大学工学部)	岡 太郎	12	560,000	440,000	10
12G-11	絶対重力計相対重力計の併用による、桜島の火山活動に伴う山体内部の密度変化の検出	大久保修平(東大地震研究所)	山本圭吾	12	210,000	240,000	4
12G-12	平常時および災害時の緊急用水としての雨水・都市雑排水の利用可能性に関する調査研究	城戸由能(京都大学防災研究所)		12	390,000	500,000	3
12G-13	鬼界カルデラのマグマ溜りとその探査法に関する基礎的研究	松島喜雄(工業技術院地質調査所)	井口正人	12	550,000	410,000	4
12G-14	地形改変がある場合の地すべりの挙動とその土塊の変形について	海堀正博(広島大学総合科学部)	末峯 章	12	580,000	560,000	5
12G-15	熱・水収支観測の高精度評価に関する研究	玉川一郎(岐阜大学工学部)	林 泰一	12	500,000	360,000	3
12G-16	盆地における局地循環と霧発生との関連	田中正昭(京大防災研究所)		12	720,000	500,000	7
12G-17	日本上陸前後の台風の構造に関する研究	内藤玄一(防衛大学校応用科学群地球海洋学科)	林 泰一	12	600,000	380,000	6
12G-18	ドップラーソーダを用いた海陸風の動態と性状に関する観測的研究	岩田 徹(岡山大学環境理工学部)	林 泰一	12	600,000	500,000	6

付表6.4 研究集会(特定)

(金額単位:円)

課題番号	研究集会名:開催場所:開催日	研究代表者 (所属機関)	所内担当者	経費配分額	校費	参加人数
10S-1	日本海重油汚染にみる総合的環境防災とリスクマネジメント:京都大学防災研究所: 平成10年10月22日(木)~11年2月26日(金)	萩原良巳 (京都大学防災研究所)		600,000	300,000	49
10S-2	都市域とその周辺における大気メタンの発生分布に関する研究:京都大学防災研究所: 平成10年11月12日(木)	岩嶋樹也 (京都大学防災研究所)		600,000	300,000	20
10S-3	Memorial Conference in KobeⅣ:神戸海洋博物館:平成11年2月20日(土)	土岐憲三 (京都大学工学研究科)	河田恵昭	500,000	300,000	450
11S-1	山地傾斜、河川水系、海岸を通じた物質移動の環境・防災的意義:京都大学防災研究所: 平成11年8月10日(火)~11日(水)	杉本隆盛 (東京大学海洋研究所)	奥西一夫	670,000	300,000	25
11S-2	防災GISの現状と展望に関する分野横断的研究フォーラム:京都大学木質ホール、防災研究所: 平成11年11月2日(火)	寶 馨(京都大学防災研究所)		670,000	300,000	131
11S-3	地すべりデータベースの研究Study on Landslide Databases:京都大学木質ホール: 平成12年2月16日(水)	福岡 浩 (京都大学防災研究所)		660,000	300,000	30
12S-1	都市住空間における地震災害のリスク評価とマネジメント:京都大学防災研究所: 平成12年12月15日(水)~16日(木)	鈴木祥之(京都大学防災研究所)		720,000	250,000	36
12S-2	21世紀の水防災研究を考えるー最近の水災害から見えてくることー:京都大学木質ホール: 平成12年12月6日(水)	中川 一 (京都大学防災研究所)		720,000	250,000	52
12S-3	十津川災害111周年記念集会ー斜面災害発生場所予測に向けてー:奈良県吉野郡十津川村周辺: 平成12年10月19日(木)~21日(土)	千木良雅弘 (京都大学防災研究所)		630,000	150,000	21

付表6.5 研究集会(一般)

(金額単位:円)

課題番号	研究集会:開催場所:開催日	研究代表者 (所属機関)	所内担当者	経費配分	校費	参加人数
10K-1	GPS気象学とその気象災害・水利用への応用に関する研究集会:京大会館(京都市左京区):平成10年11月30日(月)~12月2日(水)	内藤勲夫(国立天文台)	田中寅夫、大石 哲	500,000	80,000	108
10K-2	都市圏における地質環境の変遷と地震動災害:京都大学防災研究所:平成10年12月21日(月)~22日(火)	楡井 久 (千葉県水質保全研究所)	赤松純平、梅田康弘	500,000	200,000	29
10K-3	地殻の電気伝導度とその時間変化の研究:京都大学木質科学研究所木質ホール:平成11年1月25日(月)~26日(火)	三品正明 (東北大学大学院理学研究科附属地震噴火予知観測センター)	住友則彦、大志万直人	700,000	300,000	78
10K-4	構造物の健全度モニターシステムの現状と将来展望:京都大学防災研究所:平成10年10月19日(月)~20日(火)	佐藤忠信 (京都大学防災研究所)		700,000	300,000	20
10K-5	海域への土砂供給源としてみた河川流送土砂のあり方:京都大学防災研究所附属災害観測実験研究センター穂高砂防観測所:平成10年10月30日(金)	田中 仁 (東北大学大学院工学研究科)	澤田豊明、中川 一	700,000	100,000	21
10K-6	水資源セミナー:京大会館(京都市左京区):平成10年10月6日(火)	池淵周一 (京都大学防災研究所)		440,000	65,000	61
10K-7	日・欧・米の海岸保全の相互評価:京都大学木質科学研究所木質ホール:平成11年1月13日(水)	山下隆男 (京都大学防災研究所)		700,000	300,000	50
10K-8	被災者の自立と社会的支援に関する研究会:京都市リサーチパーク:平成10年9月18日(金)	村上ひとみ(山口大学工学部)	鈴木祥之、林 春男	450,000	100,000	16
10K-9	空間構造の耐震性能・評価をどう進めるか?:アイリス愛知・名古屋大学フロンティアプラザVBL:平成10年10月16日(金)~17日(土)	加藤史郎(豊橋技術科学大学)	國枝治郎	650,000	300,000	64
10K-10	都市安全のための構造物衝撃破壊現象に関するワークショップ:河鹿ロイヤルホテル(石川県江沼郡):平成10年5月21日(木)~23日(土)	野中泰二郎 (京都大学防災研究所)		650,000	300,000	28
10K-11	琵琶湖プロジェクトシンポジウム:京都大学防災研究所:平成10年12月21日(月)	中北英一 (京都大学防災研究所)		650,000	100,000	29
11K-1	テクトニック活動域で多面的に見た潮汐の研究集会:京大会館(京都市左京区):平成11年12月7日(火)~9日(木)	大江昌嗣 (国立天文台)	古澤 保、中村佳重郎	600,000	200,000	53
11K-2	Memorial Conference in KobeV:建築会館ホール:平成12年1月17日(月)~18日(火)	土岐憲三 (京都大学工学研究科)	河田恵昭、林 春男	600,000	300,000	800
11K-3	国土の改変に伴う土砂移動現象の変化と自然環境:京都大学防災研究所附属災害観測実験研究センター穂高砂防観測所:平成11年10月29日(金)	橋本晴行 (九州大学大学院工学研究院)	澤田豊明、中川 一	800,000	100,000	20
11K-4	シェル・空間構造の耐震、台風、耐雪、耐火を考えた性能設計と解析:日本建築学会建築ホール(東京都):平成11年11月25日(木)	坂 壽二 (大阪市立大学工学部)	國枝治郎、諸岡繁洋	700,000	250,000	62
11K-5	都市直下型地震による構造物の衝突破壊の解明と防止策に関するワークショップ:シーサイドホテル(福山):平成11年12月4日(土)~6日(月)	野中泰二郎 (京都大学防災研究所)		700,000	250,000	28
11K-6	木構造の耐震性能評価・設計法に関する研究:京都大学防災研究所、国際交流セミナー室:平成12年2月25日(金)	鎌田輝男 (福知山大学)	鈴木祥之	650,000	250,000	31
11K-7	環境地盤災害防止:シミズホール、地盤工学会会議室(東京都):平成11年11月25日(木)~27日(土)	嘉門雅史 (京都大学防災研究所)		600,000	200,000	229
11K-8	気象災害の被害調査法に関する研究集会:京都大学防災研究所:平成12年2月29日(火)	林 泰一 (京都大学防災研究所)		700,000	250,000	29
11K-9	水資源セミナー:京都大学防災研究所水資源研究センター:平成11年11月4日(木)	池淵周一 (京都大学防災研究所)		450,000	220,000	40

課題番号	研究集会:開催場所:開催日	研究代表者 (所属機関)	所内担当者	経費配分	校費	参加人数
11K-10	琵琶湖プロジェクトシンポジウム:京都大学 防災研究所水資源研究センター:平成11年12 月22日(水)	中北英一 (京都大学防災 研究所)		700,000	100,000	28
12K-1	大空間構造に想定し得る被災の要因と対策: 日本建築学会会館(東京)	山田大彦 (東北大学未来 科学技術共同研 究センター)	諸岡繁洋	720,000	240,000	40
12K-2	火山ガス研究集会:薩摩硫黄島	平林順一(東京 工業大学草津白 根火山観測所)	石原和弘	720,000	160,000	60
12K-3	火山の浅部構造と火山流体:京都大学防災研 究所	鍵山恒臣 (東京大学地震 研究所)	井口正人	720,000	240,000	38
12K-4	伊豆半島の地殻活動に関連する電磁気現象の 研究:静岡県伊東市	茂木 透(北海 道大学大学院理 学研究科)	大志万直人	640,000	240,000	37
12K-5	土砂移動現象の地形学的解析と地形を考慮し た土砂移動現象予測手法:京都大学防災研究 所附属穂高砂防観測所	石川芳治 (京都府立大学 農学部)	澤田豊明	640,000	80,000	20
12K-6	構造物の非線形同定技術と健全度モニターシ ステムの将来展望:京都大学防災研究所	佐藤忠信 (京都大学防災 研究所)		624,000	200,000	25
12K-7	文化遺産と地すべりに関する研究集会:京都 国際交流会館	山岸宏光(新潟 大学理学部)	佐々恭二	560,000	240,000	70
12K-8	精密地球計測技術に基づく長周期地球ダイナ ミクスの解明に関する研究集会:京都大学防 災研究所	今西祐一 (東京大学海洋 研究所)	古澤 保	350,000	160,000	30
12K-9	アジア地域の水門素過程及び水資源に関する 比較研究:京都大学防災研究所	岡 太郎 (京都大学防災 研究所)		456,000	280,000	22
12K-10	2000年琵琶湖プロジェクトシンポジウム-第 3ステージに向けて-:京都大学防災研究所	中北英一 (京都大学防災 研究所)	田中賢治	360,000	120,000	20
12K-11	地震発生に至る地殻活動解明に関するシンポ ジウム:京都大学防災研究所	梅田康弘 (京都大学防災 研究所)		420,000	240,000	35

付表 6.6 教育改善推進費(学長裁量経費)

プロジェクト課題	研究代表者	採択額(千円)
活断層による京都大学構内の地震予測に関する調査研究	工学研究科教授 渡辺史夫	200
砕波帯を含めた沿岸域の流動に関する現地観測	防災研究所助手 馬場康之	905

付表 6.7 リーダーシップ支援経費配分額内訳 (単位：千円)

		10年度	11年度
項・研究所	諸謝金	0	0
	職員旅費	1,191	1,265
	外国旅費	0	0
	研究員等旅費	400	395
	外国人教師等招聘帰国旅費	2,540	1,781
	校費	13,694	17,000
	計	17,825	20,441
項・国立学校	在外研究員旅費	922	396
合計		18,747	20,837

付表 6.8 科学研究費新規採択状況 (平成 10～11 年度)

	平成 10 年度				平成 11 年度			
	新規申請	新規採択	採択率	全採択率	新規申請	採択	採択率	全採択率
特定領域(A)	8	3	37.5	30.7	4	2	50.0	30.4
特定領域(B)					6	6	100.0	
基盤研究(A)	7	2	28.6	19.1	13	4	30.8	21.7
基盤研究(B)	44	14	31.8	17.6	37	10	27.0	17.4
基盤研究(C)	15	4	26.7	22.0	24	4	16.7	21.8
萌芽的研究	6	1	16.7	14.4	4	1	25.0	12.9
奨励研究(A)	11	4	36.4	27.0	15	5	33.3	25.1
国際学術研究	13	4	30.8	25.8				
地域連携					4	2	50.0	
特別研究促進	0	0			2	2	100.0	
合計	104	32	30.8	22.2	109	36	33.0	21.8
特別研究員		6				6		

全採択率とは、公募全体における新規採択率(全分野)

灰色欄は該当年度募集なし

付表6.9 科研費

(金額単位：千円)

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
岡田憲夫	一般研究C	斜面都市の防災とまちづくりに関する研究	代表	6	1,100
				7	500
岡田憲夫	総合研究A	平成6年度全国渇水の気象・水文特性と被害対策の地域別比較調査研究	分担	7	3,000
				8	1,100
岡田憲夫	基盤研究B1	社会基盤整備計画の分散処理化に関する総合的研究	分担	7	1,200
岡田憲夫	基盤研究B1	社会基盤整備計画の分散処理化に関する総合的研究	分担	8	800
岡田憲夫	国際学術研究	大都市地震災害において許容される被害レベルに関する社会的合意の形成	分担	8~9	10,100
岡田憲夫	総合研究A	阪神大震災におけるボランティア活動の全貌とその中長期的インパクト	分担	8~10	11,500
岡田憲夫	国際学術研究	都市地震リスクのマネジメントを目的とした高性能社会基盤整備戦略に関する研究	代表	10	15,000
岡田憲夫	特定領域研究A2	人間行動を考慮した地震災害リスクの評価法に関する研究	代表	10	1,600
岡田憲夫	基盤研究B2	自治体間の自発的協調に基づく社会基盤施設整備の費用分担方式に関する基礎的研究	代表	10	4,900
				11	3,400
岡田憲夫	基盤研究B1	環境用水の需要を考慮した多目的ダムの費用配分法の開発－慣用的配分法とゲーム論的配分法の融合に向けて	代表	11	4,100
				12	2,700
岡田憲夫	基盤研究C1	災害リスクマネジメント研究のための方法論に関する企画調査研究	代表	11	3,300
岡田憲夫	特定領域研究B2	社会基盤システムの地震時性能規範評価法の開発	代表	11	5,500
				12	8,500
				13	9,250
岡田憲夫	基盤研究C2	過疎地域の活性化に関する実践研究	分担	11	1,700
				12	1,100
				13	800
岡田憲夫	基盤研究C2	離散選択方モデルを用いた社会基盤整備の便益の信頼性評価方法の開発		12	1,800
				13	1,600
亀田弘行	一般研究B	既知波形を含む条件付確率場および地震動の確率的内挿とその地震工学的应用	代表	7	1,700
亀田弘行	一般研究C	極低サイクル繰り返し載荷を受ける鋼鋼材ならびに鋼部材の亀裂発生・損傷過程	分担	7	1,200
亀田弘行	総合研究A	平成7年度兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	代表	7	54,000
亀田弘行	基盤研究B	想定地震の工学的設定とリスク適合地震動の生成による地震ハザードGISの開発	代表	7	3,400
				8	1,500
				7	2,300
亀田弘行	総合研究A	防災GISの開発による地震災害情報システムの構築に関する研究	代表	8	1,300
				9	1,400
亀田弘行	基盤研究B1	総合防災学の理論構築へ向けての阪神・淡路大震災の実証的手検討	代表	8	2,700
亀田弘行	重点領域研究1 (計画研究)	交通・通信システムの防災機能に関する研究	代表	8	17,500
亀田弘行	重点領域研究1 (計画研究)	都市直下の地震による災害防止に関する基礎研究	分担	8	15,000
亀田弘行	国際学術研究	大都市地震災害において許容される被害レベルに関する社会的合意の形成	代表	8	6,400
				9	3,700
				10	4,000
亀田弘行	基盤研究B2	地理情報システムを利用した都市建築物の地震被害分布即時評価法の確立	分担	8	2,100
				9	1,800
亀田弘行	特定領域研究A1 (計画研究)	交通・通信システムの防災機能に関する研究	代表	9	15,000
亀田弘行	特定領域研究A1 (計画研究)	都市直下の地震による災害防止に関する基礎研究	分担	10	13,300
				9	11,900
亀田弘行	基盤研究B1	リスク対応型地域管理情報システム (RARMIS) による災害マネジメン	代表	10	6,100
				11	5,000
亀田弘行	特定領域研究B1 (計画研究)	日米共同研究による都市地震災害の軽減	代表 (総括班)	10	5,000
鈴木祥之	一般研究B	構造物の不確定モデリングと信頼性評価に関する研究	代表	7	2,300
				8	1,600
鈴木祥之	総合研究A	平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	分担	7	54,000
鈴木祥之	基盤研究A	建築構造物の広域観測技術の確立と設計用地震動評価への適用	分担	7	3,900
鈴木祥之	基盤研究A	建築構造物の広域観測技術の確立と設計用地震動評価への適用	分担	8	4,900
				9	800
鈴木祥之	基盤研究A	建築構造物の制震システムに関する理論的・実験的研究	代表	8~9	
鈴木祥之	重点領域研究1	阪神・淡路大震災による木造建物の解明と耐震対策	代表	8	3,800

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
鈴木祥之	重点領域研究1	直下型地震による居住空間の被害と防災計画に関する研究	分担	8	2,800
鈴木祥之	重点領域研究1	木造軸組構造物の耐震性能	分担	9	3,300
鈴木祥之	国際学術研究	都市域の地震危険度予測と検証に関する日中共同研究	分担	9	12,100
鈴木祥之	特定領域研究A1	木造住宅土塗り壁の耐震性能評価に関する実験的再検討	代表	10	10,200
鈴木祥之	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	代表	10	2,800
鈴木祥之	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	代表	10	4,600
鈴木祥之	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	代表	11	4,300
鈴木祥之	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	代表	12	3,500
鈴木祥之	特定領域研究B2	構造物のモニタリングと損傷度検出システム	代表	11	5,500
鈴木祥之	特定領域研究B2	構造物のモニタリングと損傷度検出システム	代表	12	6,600
鈴木祥之	地域連帯推進研究2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	11	15,800
鈴木祥之	地域連帯推進研究2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	12	16,900
藤原悌三	国際学術研究	都市域における地震危険度の予測と減災に関する日中共同研究	代表	9	10,200
藤原悌三	国際学術研究	都市域における地震危険度の予測と減災に関する日中共同研究	代表	10	12,100
藤原悌三	総合研究A	平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	代表	7	
藤原悌三	基盤研究A1	建築構造物応答の広域観測技術の確立と設計用地震動評価への適用	代表	7	3,900
藤原悌三	基盤研究A1	建築構造物応答の広域観測技術の確立と設計用地震動評価への適用	代表	8	4,900
藤原悌三	基盤研究A1	建築構造物応答の広域観測技術の確立と設計用地震動評価への適用	代表	9	800
藤原悌三	重点領域研究1	直下型地震による居住空間の被害と防災計画に関する研究	代表	8	2,800
多々納裕一	総合研究A	山間過疎地域における公共交通サービスの維持方策に関する総合的研究		6~7	3,000
多々納裕一	奨励研究A	開発留保の便益を考慮した開発戦略決定ルールに関する研究		7	900
多々納裕一	一般研究C	都市水循環システムの信頼性の評価と向上に関する研究		7	600
多々納裕一	総合研究A	平成6年度渇水の気象・水文学的検証と渇水時のリスクマネジメントに関する研究		7~8	
多々納裕一	総合研究A	社会基盤整備計画の分散処理化に関する総合的研究		7~8	
多々納裕一	基盤研究B1 (試験研究B)	運動行動分析に基づく潜在事故危険度分析と誘導型交通環境設計の方法論		8~9	1,700
多々納裕一	一般研究C	都市水循環における水量・水質の需要と負荷の発生構造とその制御方法に関する研究		8~9	2,100
多々納裕一	国際学術研究	交通システムのモード連携に関する国際比較研究		9~11	4,400
多々納裕一	国際学術研究	国際的社會資本整備が地域経済の統合化に果たす役割に関する研究		9~11	3,100
多々納裕一	国際学術研究	都市地震リスクのマネジメントを目的とした高性能社会基盤整備戦略に関する研究		10	15,000
多々納裕一	特定領域研究A2	人間行動を考慮した地震災害リスクの評価法に関する研究		10	1,600
多々納裕一	基盤研究B2	自治体間の自発的協調に基づく社会基盤施設整備の費用分担方式に関する基礎的研究		10	4,900
多々納裕一	基盤研究B2	自治体間の自発的協調に基づく社会基盤施設整備の費用分担方式に関する基礎的研究		11	3,400
多々納裕一	奨励研究A	競合環境下における不可逆・不確実性下のプロジェクト評価に関する研究		10	900
多々納裕一	奨励研究A	競合環境下における不可逆・不確実性下のプロジェクト評価に関する研究		11	1,100
多々納裕一	基盤研究B1	環境用水の需要を考慮した多目的ダムの費用配分法の開発ー慣用的配分法とゲーム論的配分法の融合に向けて		11	4,100
多々納裕一	基盤研究B1	環境用水の需要を考慮した多目的ダムの費用配分法の開発ー慣用的配分法とゲーム論的配分法の融合に向けて		12	2,700
多々納裕一	基盤研究C1	災害リスクマネジメント研究のための方法論に関する企画調査研究		11	3,300
多々納裕一	基盤研究C2	離散選択方モデルを用いた社会基盤整備の便益の信頼性評価方法の開発		12	1,800
多々納裕一	基盤研究C2	離散選択方モデルを用いた社会基盤整備の便益の信頼性評価方法の開発		13	1,600
林 康裕	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	分担	10	4,600
林 康裕	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	分担	11	4,300
林 康裕	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	分担	12	3,500
田中 聡	奨励研究A	地震発生直後の緊急災害情報システムの適用に関する研究	代表	8	900
田中 聡	奨励研究A	災害復旧期における広域物流支援システムの構築	代表	9	1,800
田中 聡	奨励研究A	災害復旧期における広域物流支援システムの構築	代表	10	700
田中 聡	国際学術研究	大都市地震災害において許容される被害レベルに関する社会的合意の形成	分担	10	4,000
田中 聡	基盤研究B2	双方向通信に基づくリアルタイム地震防災システムの構築	分担	10	4,100
田中 聡	奨励研究A	震災の記録・資料に基づく災害過程の体系化と防災ソースの研究	代表	11	1,500
田中 聡	基盤研究B1	リスク対応型地域管理情報システム (RARMIS) による災害マネジメント	分担	10	6,100
田中 聡	基盤研究B1	リスク対応型地域管理情報システム (RARMIS) による災害マネジメント	分担	11	5,000
田中 聡	特定領域研究A1 (計画研究)	交通・通信システムの防災機能に関する研究	代表	11	1,600
入倉孝次郎	国際学術研究	直下地震による強震動予測に関する日仏共同研究	代表	7	3,200
入倉孝次郎	国際学術研究	直下地震による強震動予測に関する日仏共同研究	代表	8	3,200

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
入倉孝次郎	総合研究A	強地震動の予測に関する総合的研究	代表	7	2,100
入倉孝次郎	試験研究B1	地震防災を目的とした地震動情報の即時伝達システムに関する研究	代表	7	7,000
入倉孝次郎	基盤研究A	地震防災を目的とした地震動情報の即時伝達システムに関する研究	代表	8	6,500
入倉孝次郎	重点領域研究A (特定領域研究A1)	活断層の危険度評価と強震動予測	代表	8	42,000
				9	30,400
				10	15,500
				11	19,500
入倉孝次郎	国際学術研究	都市直下地震による強震動と地震災害に関する日米共同研究	代表	9	2,500
				10	3,000
入倉孝次郎	特別研究員 (Rietbrock, A.) 奨励費	兵庫県南部地震の震源域の非弾性的構造の推定および強震動の再現	代表	10	1,200
入倉孝次郎	地域連携推進経費2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	代表	11	15,800
入倉孝次郎	特別研究員 (Petukhin, A.) 奨励費	強震動予測のための先端的手法の研究	代表	11	1,200
佐藤忠信	一般研究C	リアルタイム震災制御のための実時間条件付き震動予測法	代表	7	1,500
				8	1,700
佐藤忠信	総合研究A	リアルタイム災害把握のための強震動モニタリングシステムの開発	分担	6	1,500
				7	800
				8	100
佐藤忠信	試験研究B	土木構造物の震動制御のための自己学習機能を有する制御装置の開発	分担	6~7	1,100
佐藤忠信	一般研究A	長大構造物のインテリジェント化に関する研究	分担	7	11,500
				8	5,800
				9	2,800
				10	1,400
佐藤忠信	総合研究A	平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	分担	7	54
佐藤忠信	基盤研究B	バリエブルダンパーを用いた土木構造物の振動制御機構の開発	代表	8	3,800
				9	1,300
				10	1,000
佐藤忠信	基盤研究C	リアルタイム地震動ゾーニング手法の開発	代表	8	1,700
佐藤忠信	基盤研究B	サーボ型速度計を用いた地盤永久変位センサーの開発	分担	8	3,400
				9	1,900
				10	1,100
佐藤忠信	重点領域 (特定領域)	都市直下の地震による災害の防止に関する基礎研究	分担	8	1,000
				9	1,000
				10	1,000
				11	1,500
佐藤忠信	重点領域 (特定領域)	入力地震動および地震荷重の評価	分担	8	7,850
				9	2,500
				10	2,300
				11	2,200
佐藤忠信	基盤研究A	地震時山地崩壊分布の予測と2次災害の防御に関する研究	分担	8	5,300
				9	3,600
				10	3,200
佐藤忠信	基盤研究C	電磁型可変減衰装置を用いた土木構造物の震動制御システムの開発	代表	10	2,200
				11	1,700
佐藤忠信	国際学術研究	都市地震災害軽減のための構造物健全度監視システムの開発	代表	10	8,800
				11	7,300
佐藤忠信	国際学術研究	都市地震リスクのマネジメントを目的とした高性能社会基盤整備戦略に関する研究	分担	10	10
佐藤忠信	基盤研究B	双方向通信に基づくリアルタイム地震防災システムの構築	分担	10	4,100
				11	3,500
佐藤忠信	基盤研究B	要注意活断層近傍施設の耐震安全性評価とその対策工法に関する研究	分担	11	500
佐藤忠信	研究成果公開促進費	自然災害資料データベース	代表	7	7,350
				8	7,350
				9	7,350
				10	7,350
				11	7,350
佐藤忠信	特定領域研究B	構造物のモニタリングと損傷度検出システム	分担	11	5,500
佐藤忠信	特定領域研究B	日米共同研究による都市地震災害の軽減	分担	11	7,900
佐藤忠信	特別研究促進費1	1999年台湾収集地震とその災害に関する調査研究	分担	11	5,800
中島正愛	基盤研究B2(一般)	鉄骨構造物・構造部材に要求される塑性変形量とその変動の定量化	代表	7~8	5,700

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
中島正愛	基盤研究A2(展開)	鉄骨柱はり溶接接合部の破壊特性に及ぼす溶接法・載荷速度・載荷履歴の影響	代表	8~10	11,900
中島正愛	重点領域研究	長周期パルスを受ける免震構造物の最大変形予測	代表	9	2,200
中島正愛	特定領域研究	直下型地震を受ける履歴ダンパー付き鉄骨造建物の変形応答特性	代表	10	2,000
中島正愛	基盤研究B2(一般)	履歴ダンパーを含む鉄骨造建物における層への消費エネルギー分配特性	代表	10~11	7,000
中島正愛	基盤研究B2(展開)	地震入力を受ける鉄骨骨組の完全崩壊再現実験システムの開発と検証	代表	11~13	13,800
澤田純男	奨励研究	散乱波の影響を考慮した多層地盤の地震応答解析法に関する研究	代表	7	900
澤田純男	試験研究B	サーボ型速度計を用いた地盤永久変位センサーの開発	代表	8	3,400
				9	1,200
				10	1,100
澤田純男	重点領域研究A	震源断層近傍の強震動スペクトルの予測手法に関する研究	代表	8	1,300
澤田純男	奨励研究A	散乱波の影響を考慮した多層地盤の地盤震動特性の評価法に関する研究	代表	9	1,200
				10	1,000
澤田純男	重点領域研究A	位相特性を考慮した震源断層近傍の強震動スペクトルの予測手法	代表	10	1,300
澤田純男	試験研究B	地震防災を目的とした地震動情報の即時伝達システムに関する研究	分担	7~9	
澤田純男	地域連携推進	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	11	
澤田純男	一般研究A	長大構造物のインテリジェント化に関する研究	分担	7~10	
澤田純男	基盤研究B	電磁型可変減衰装置を用いた土木構造物の震動制御システムの開発	分担	10~11	
澤田純男	国際学術研究	都市地震災害軽減のための構造物健全度監視システムの開発	分担	10~12	
澤田純男	国際学術研究	都市地震リスクのマネジメントを目的とした高性能社会基盤整備戦略に関する研究	分担	10	
岩田知孝	奨励研究	近地広帯域強震動観測ネットワーク記録を用いた強震動分布の早期推定に関する研究	代表	7	1,000
岩田知孝	基盤研究C	全国に展開された強震観測網記録を用いた地震波サイト特性の評価	代表	9	1,000
				10	900
岩田知孝	特定領域研究B	都市域における高精度強震動予測手法に関する研究	代表	11	5,500
				12	5,800
				13	1,200
岩田知孝	基盤研究C	強震動データを用いたシナリオ地震に基づく強震動予測手法に関する基礎研究	代表	12	1,200
岩田知孝	総合研究A	強地震動予測に関する総合的研究	分担	5~7	
岩田知孝	総合研究A	平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	分担	7	
岩田知孝	試験研究B	地震防災を目的とした地震動情報の即時伝達システムに関する研究	分担	7~9	
岩田知孝	試験研究B	機動強震アレイ観測のための軽量小型地震計の製作と観測・解析マニュアルの製作	分担	7~9	
岩田知孝	国際学術研究(共同研究)	強震動予測に関する日仏共同研究	分担	7~8	
岩田知孝	国際学術研究(共同研究)	グラナダ盆地(スペイン)のサイズミック・マイクロゾーンーションに関する共同研究	分担	7~9	
岩田知孝	重点領域研究	活断層の危険度評価と強震動予測	分担	8~11	
岩田知孝	重点領域研究	人工地震記録を用いた神戸市周辺の地盤構造の推定と地震波の伝播特性の評価	分担	8	
岩田知孝	国際学術研究(共同研究)	直下地震による地震動と地震災害に関する日米共同研究	分担	9~10	
岩田知孝	国際学術研究(共同研究)	都市地震リスクマネジメントを目的とした高性能社会基盤整備戦略に関する研究	分担	10	
岩田知孝	国際学術研究(共同研究)	都市地震災害軽減のための構造物健全度監視システムの開発	分担	10~11	
岩田知孝	基盤研究B	複数のテストサイトにおける地震動への局地的影響評価	分担	11~12	
岩田知孝	基盤研究B	簡便かつ高精度なサイト特性評価に基づく定量的な地震入力評価法の開発	分担	11~12	
岩田知孝	地域連携推進	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	11~13	
本田利器	基盤研究C2	電磁型可変減衰装置を用いた土木構造物の震動制御システムの開発	分担	10	2,200
				11	1,700
本田利器	国際学術研究(基盤研究A2)	都市地震災害軽減のための構造物健全度監視システムの開発	分担	10	8,800
				11	7,300
				12	7,500
本田利器	基盤研究B1	サーボ型速度計を用いた地盤永久変位センサーの開発	分担	8~10	1,100

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
本田利器	特定領域研究A2	位相特性と考慮した震源断層近傍の強震動スペクトルの予測手法	分担	10	1,300
諸岡繁洋	一般研究C	シェル・ラチスドームの安定限界外力、特に地震強度の解析に関する基礎研究	代表	6	2,000
諸岡繁洋	基盤研究B2	屋根型円筒シェル・ラチス構造の地震応答特性に関する研究	代表	8	3,500
				9	3,300
諸岡繁洋	奨励研究A	球形シェル構造の地震応答挙動に於けるモード連成作用効果の解析的研究	代表	9	600
				10	1,200
				11	1,700
				12	600
嘉門雅史	一般研究B	廃棄物による地盤環境災害の防止技術に関する調査研究	代表	7	900
嘉門雅史	基盤研究A1	海底洪積年度地盤の長期沈下に関する設計パラメータ同定のための研究	代表	7	2,400
				8	700
嘉門雅史	基盤研究一般C2	環境質による地盤環境影響評価とその制御に関する研究	代表	9	2,700
				10	700
嘉門雅史	基盤研究展開A1	廃棄物の地盤工学的有効利用とその環境影響評価手法の開発	代表	10	26,000
				11	5,500
千木良雅弘	基盤研究C	秋田県鹿角市八幡平地すべり・土石流災害に関する調査研究	分担	9	3,300
千木良雅弘	特別研究推進費	1999年6月西日本の梅雨前線豪雨による災害に関する調査研究	分担	11	4,100
千木良雅弘	特別研究推進費	1999年ベネズエラ国で発生した洪水・土砂災害に関する調査研究	分担	11	5,000
千木良雅弘	基盤研究C	岩石の風化帯構造に起因する崩壊発生メカニズムの研究	代表	11~13	2,300
佐々恭二	国際学術研究	大規模高速地すべりの発生・運動予測法の開発	代表	6	3,500
				7	3,100
				8	3,100
佐々恭二		平成7年兵庫県地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	分担	7	54,000
佐々恭二	重点領域研究2	「都市直下の地震による災害の防止に関する基礎的研究」A02都市の耐震性評価、都市周辺斜面の地震時危険度評価の研究	代表	9	2,100
佐々恭二	基盤研究C1	秋田県鹿角市八幡平地すべり・土石流災害に関する調査研究	分担	9	3,300
佐々恭二	基盤研究C1	1997年7月梅雨前線停滞に伴う西日本の豪雨災害に関する調査研究		9	4,500
佐々恭二	研究成果公開促進費	Landslides in the World	代表	10	4,200
佐々恭二	基盤研究B2	文化遺産地区における地すべり災害予測の研究	代表	11	3,500
				12	3,200
奥西一夫	基盤研究B2	土壌凍結が斜面の安定性に与える影響	代表	9	2,100
				10	1,900
				11	1,000
奥西一夫	基盤研究B2	噴火前後の火山斜面における水文・土砂流出変化のメカニズム	分担	8	3,500
				9	1,700
				10	900
三村 衛	基盤研究A1	海底洪積粘土地盤の長期沈下に関する設計パラメータ同定のための研究	分担	7	2,400
				8	2,400
三村 衛	基盤研究一般C2	環境質による地盤環境影響評価とその制御に関する研究	分担	9	2,700
				10	700
三村 衛	基盤研究一般C2	環境質による地盤環境影響評価とその制御に関する研究	代表	9	2,700
				10	700
三村 衛	基盤研究一般C2	ALE有限要素法を用いた大変形問題解析手法の開発	代表	8	1,900
				9	2,400
				10	500
三村 衛	基盤研究海外学術調査B2	1999年トルコ・コジャエリ地震における被害集中域アダバザルの地盤調査	分担	12	5,900
				13	6,100
				14	1,600
三村 衛	基盤研究展開B2	直下型地震による水際線構造物の崩壊機構の解明	代表	11	10,000
				12	1,500
三村 衛	一般研究B	廃棄物による地盤環境災害の防止技術に関する調査研究	代表	7	900
諏訪 浩	基盤研究B	噴火前後の火山斜面における水文・土砂流出変化のメカニズム	代表	8	3,500
				9	1,700
				10	900
諏訪 浩	国際学術研究(共同研究)	粘性土石流の予測と対策に関する研究	分担	7	3,200
				8	2,500
				9	2,800
諏訪 浩	基盤研究B	土壌凍結が斜面の安定性に与える影響	分担	9	2,100
				10	1,900
				11	1,000

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
諏訪 浩	総合研究A	1996年中国雲南省麗江地震とその被害に関する研究	分担	8	3,200
諏訪 浩	基盤研究B	1996年長野県小谷村の土石流災害調査研究	分担	8	3,500
福岡 浩	基盤研究C2	RTK-GPSを用いた斜面定期健康診断システムの開発	代表	11	1,100
				12	1,300
福岡 浩	基盤研究B2	文化遺産地区における地すべり災害予測の研究	分担	11	3,500
				12	3,200
福岡 浩	重点領域研究2	「都市直下の地震による災害の防止に関する基礎的研究」 A02都市の耐震性評価, 都市周辺斜面の地震時危険度評価 の研究	分担	9	2,100
福岡 浩	国際学術研究	大規模高速地すべりの発生・運動予測法の開発	分担	6	3,500
				7	3,100
				8	3,100
釜井俊孝	基盤研究C2	都市域の宅地盛土斜面における地震災害予測図の作成	代表	11	2,200
				12	800
釜井俊孝	基盤研究A1	破壊伝播特性および複合強度特性に基づく斜面設計法に 関する研究	分担	13	700
				7	10,700
				8	1,200
				9	700
高橋 保	一般研究B2	火砕流の発生と流動の機構に関する研究	代表	10	
高橋 保	試験研究B2	土石流の調節・制御に関する研究	代表	7	1,000
高橋 保	国際学術研究 (共同研究)	粘性土石流の予測と対策に関する研究	代表	7	2,500
				8	2,500
				9	2,800
高橋 保	総合研究A	自然災害科学の基本課題に関する総合的研究	代表	7	12,500
高橋 保	基盤研究B2	地上における高速固気混相流(火砕流及び雪崩)の流動機 構	代表	8	3,600
				9	600
高橋 保	基盤研究A2	地震時山地崩壊分布の予測と二次災害の防御に関する研 究	代表	8	5,300
				9	3,600
				10	3,200
高橋 保	基盤研究B2	山腹崩壊に伴う土石流の発生機構と流量規模予測の研究	代表	10	2,800
高橋 保	基盤研究B2	水系一貫した土砂配分システムの開発	代表	11	6,100
高橋 保	特別研究促進費	1999年ベネズエラ国で発生した洪水・土砂災害に関する 調査研究	代表	11	6,600
寶 馨	総合研究A	衛星・航空機・地上同時観測データを用いた多元的高分 解能の流域環境解析	分担	5	4,100
				6	1,800
				7	1,200
寶 馨	基盤研究B2	都市水害の解析・防御のための地理情報システムとり モートセンシングの応用	代表	7	3,000
				8	1,100
寶 馨	萌芽的研究	水文頻度解析への両側有界分布の応用とその科学的・実 用的意義	代表	9	1,200
				10	900
寶 馨	基盤研究A2	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水主現 環境に関する国際水文学的研究	分担	10	5,200
				11	5,200
				12	5,000
寶 馨	基盤研究A1	衛星同期集中/常時共同観測による水・熱循環過程のス ケール効果解明に関する総合研究	分担	10	18,200
				11	8,900
				12	4,800
寶 馨	基盤研究A1	東南アジア太平洋地域の水資源危機と対応戦略に関する 国際共同研究	分担	11	9,400
				12	9,400
寶 馨	基盤研究B2	ジャワ・スマトラ三流域における総合的水・土砂管理の ための水文・河川・海岸合同調査	代表	12	4,300
				13	4,600
				14	4,300
寶 馨	基盤研究B2	分布型洪水流出予測システムの利用を前提とした治水計 画手法の新たな展開	代表	12	3,600
				13	900
				14	1,000
寶 馨	基盤研究B2	都市の水害脆弱性と水害の危機管理システムに関する研 究	分担	12	5,300
				13	2,600
寶 馨	国際学術研究	東南アジア・太平洋地域の流域水利用実態およびデータ 環境の国際共同調査	分担	9	18,000
井上和也	一般研究B	沿岸水域の埋立とその水防災に関する研究	代表	5	4,500
				6	1,400
井上和也	一般研究B	都市水害の予測とそのハザードマップへの応用に関する 研究	代表	8	3,500
				9	2,000
井上和也	国際学術研究	メコン河下流域における持続的な開発ポテンシャルの研 究	分担	9	7,800
				10	6,100
井上和也	基盤研究B	都市の水害脆弱性と危機管理システムに関する研究	代表	12	5,300
				13	2,600

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
高山知司	基盤研究B2	多方向不規則波造波装置を用いた実海域再現性に関する研究	代表	10	1,500
				11	3,200
				12	1,800
中川 一	一般研究C	流木群の流動を伴う水理現象に関する研究	代表	7	1,200
				8	900
中川 一	基盤研究C1	1997年7月梅雨前線停滞に伴う西日本の豪雨災害に関する調査研究	分担	9	200
中川 一	基盤研究A2	地震時山地崩壊分布の予測と二次災害の防御に関する研究	分担	8	代表者一括 経理5,300
				9	3,600
				10	3,200
中川 一	基盤研究B2	地上における高速固気混相流(火砕流及び雪崩)の流動機構	分担	8	代表者一括 経理3,600
				9	600
中川 一	基盤研究B2	山腹崩壊に伴う土石流の発生機構と流量規模予測の研究	分担	10	代表者一括 経理2,800
				11	6,100
中川 一	基盤研究C2	透過型砂防ダムの機能評価と流域土砂管理に関する研究	代表	11	1,800
立川康人	基盤研究B2	大陸規模水熱循環モデル化のための衛星リモートセンシングによる物理量取得手法の獲得	分担	6	6,000
				7	500
				8	700
立川康人	重点領域研究 (衛星計測)	多様な地表面における水・熱収支の動態の研究	分担	8	28,500
				9	24,000
立川康人	基盤研究B1	メソスケール大気・陸面システムにおける水循環過程の総合解析	分担	8	2,600
立川康人	奨励研究A	全球地表面粗度データセット作成アルゴリズムの開発	代表	8	1,100
立川康人	奨励研究A	衛星レーダー画像によるアジア・モンスーン域地表面粗度マップの作成	代表	9	1,400
立川康人	基盤研究C2	水循環に対する人間活動のインパクトのモデル化とその流域水循環モデルへの導入	分担	8	1,600
				9	600
立川康人	基盤研究B2	流域総合管理のためのオンライン分散型データベースシステムの開発	分担	8	2,800
				9	1,200
立川康人	国際学術研究	アジアモンスーンの形成機構とその変動に関する総合的研究	分担	9	16,550
立川康人	基盤研究B1	水文・水資源データベースの構築とそのネットワーク共有化体制の確立	分担	10	3,900
				11	1,500
				12	1,800
戸田圭一	基盤研究B2	都市水害の予測とそのハザードマップへの応用に関する研究	分担	8	3,500
				9	2,000
戸田圭一	特別研究促進費1	1999年西日本の梅雨前線豪雨による災害に関する調査研究	分担	11	代表者一括 経理4,100
間瀬 肇	試験研究B2	ニューラルネットワークを用いた海岸・河川構造物の設計計算支援システムの開発	代表	6	1,100
				7	3,700
				8	800
間瀬 肇	基盤研究C2	不規則波浪の非線形平面変形モデルの構築と現地波浪への適用	代表	8	1,300
				9	900
間瀬 肇	基盤研究B2	遠心力波浪実験による地盤液状化と粒子移動問題の解明	分担	10	4,100
				11	2,400
里深好文	奨励研究A	山地流域からの降雨・土砂の流出に関する研究	代表	10	500
牛山素行	基盤研究B	水文・水資源データベースの構築とそのネットワーク共有化体制の確立	分担	10~12	
牛山素行	基盤研究B	土砂災害警戒避難システムのソフト化に関する研究	分担	12~14	
牛山素行	基盤研究C	中山間地域における自然社会環境変化に伴う土砂生産能力の変化	分担	11~13	
吉岡 洋	地域連携推進研究	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	分担	11	16
				12	80
吉岡 洋	基盤研究B1	沿岸域砕波面での大気・海洋気体輸送機種の解明とそのモデル化に関する研究	分担	11	3,300
吉岡 洋	基盤研究A1	砕波混入気泡と気泡連行乱れによる砕波気液界面でのガス交換機構の実態解明	分担	12	13,800
植田洋匡	一般研究B	二重拡散重力流のダイナミックスの解明と数値予測モデルの開発	代表	5	6,100
				6	2,700
				7	1,100
植田洋匡	総合研究A	地球生態系における物質循環のモデリング	代表	5~7	183,000
				5	9,100
				6	5,900
				7	3,800
植田洋匡	一般研究B	気液界面近傍の液側乱流拡散に及ぼす密度成層の影響ー大気微量気体の海洋へのフラックスー	代表	7~8	8,800
				7	5,300
				8	3,200

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
植田洋匡	特別研究員奨励費	都市大気中での乱流輸送特性	代表	6	1,200
				7	1,000
植田洋匡	日本学術振興会国際研究集会	地球規模の大気中沈着プロセスに関する国際合同セミナー	代表	9	2,500
植田洋匡	基盤研究B2(一般)	極端に強い安定成層下での乱流の極限現象に関する研究	代表	9	8,700
				10	1,000
				11	1,000
植田洋匡	基盤研究B2(展開)	エアロゾルによるグローバル大気環境変動の予測モデルと高速演算手法の開発	代表	9	3,000
				10	1,400
				11	1,400
植田洋匡	基盤研究B2(展開)	大気境界層全層観測システムの開発と大気乱流の組織構造に関する研究	代表	12	8,300
				13	2,200
				14	1,000
植田洋匡	基盤研究C1	環境流体における物質の大規模な輸送拡散機構の研究	分担(18名)	8	1,500
植田洋匡	試験研究A	コンディショナルサンプラー(渦積分法)を用いた濃度フラックス直接測定法の実用化研究	分担4名	7	6,000
植田洋匡	総合研究A	自然災害科学の基本課題と資料収集・解析に関する総合的研究	分担23名	8	5,000
植田洋匡	基盤研究B1(総合)	メソスケール大気・陸面システムにおける水循環過程の総合解析	分担20名	8	2,600
				9	2,400
植田洋匡	基盤研究B2(展開)	酸性雪の長距離輸送とそれが流出過程に及ぼす影響に関する研究	分担7名	10	7,000
植田洋匡	基盤研究C2(一般)	アジア域における生物マス燃焼等広域大気汚染の気候影響に関する調査	分担22名	10	2,300
植田洋匡	特定領域研A1	アジア・太平洋域のエアロゾルの変動と放射への影響	分担(計画)	10	35,300
				11	34,300
植田洋匡	特別研究促進費	台風9918号に伴う高潮と竜巻の発生・発達と被害発生メカニズムに関する調査研究	分担22名	11	4,800
植田洋匡	基盤研究A2	インドネシア域における生物マス燃焼が及ぼす気候学的影響に関する調査的研究	分担26名	11	8,400
植田洋匡	基盤研究C1(総合)	エアロゾルキャラクターゼーション実験(ACE-Asia)計画の推進と国際対応	分担22名	11	3,200
岩嶋樹也	基盤研究B2	都市待機メタンに関する研究	代表	8	2,800
河井宏允	基盤研究C	突風に伴う建物の震動とその発生機構に関する研究	代表	8~9	194
河井宏允	一般研究C	突風による風荷重の特性と評価に関する研究	代表	6~7	1,400
田中正昭	基盤研究A2	実時間的な台風風災害予測法の研究	分担	7~8	
田中正昭	基盤研究A2	実時間的な台風風災害予測法の研究	代表	9~10	
石川裕彦	基盤研究C2	発達した温帯低気圧にともなう強風の予測に関する研究	代表	7	600
				8	1,000
石川裕彦	特定領域	チベット高原大気エネルギー・水循環過程	代表	11	12,900
				12	10,700
丸山 敬	一般研究B	自然風中の風向風速変化による高層建物縮尺模型まわりの流れ場の形成に関する研究	分担	7	3,300
丸山 敬	一般研究B	自然風中の風向風速変化による高層建物縮尺模型まわりの流れ場の形成に関する研究	分担	8	1,000
丸山 敬	基盤研究C	建築物周りの非定常流れ場の数値計算に用いる流入変動風速の生成に関する研究	代表	9	2,300
				10	1,100
丸山 敬	基盤研究B	自然風中での高層建物縮尺模型まわりの流形相似性に関する研究	分担	11	10,600
				12	1,800
				13	2,300
堀口光章	国際学術研究	日中共同乾燥地域自然環境・総合モニタリング計画	分担	7	6,600
堀口光章	基盤研究C2	発達した温帯低気圧に伴う強風の予測に関する研究	分担	7	600
				8	1,000
堀口光章	基盤研究B2	極端に強い安定成層下での乱流の極限現象に関する研究	分担	9	8,700
				10	1,000
				11	1,000
堀口光章	基盤研究B2	エアロゾルによるグローバル大気環境変動の予測モデルと高速演算手法の開発	分担	9	3,000
				10	1,400
				11	1,400
今本博健	一般研究C	汽水湖の海水交換特性に関する研究	代表	7	600
関口秀雄	基盤研究B2	地盤一構造物一流体系の非線形震動解析コードの開発と大水深防波堤の耐震性診断	代表	8~9	5,100
関口秀雄	基盤研究C2	X線TVシステムを応用した粒状体地盤と流体の動的相互作用の可視化に関する研究	代表	8~9	2,400
				9~10	3,400
関口秀雄	基盤研究B2	遠心力場波浪実験による地盤液状化と粒子移動問題の解明		10~11	6,500
石垣泰輔	一般研究C	汽水湖の海水交換に関する研究	分担	6	2,130
				7	600

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
石垣泰輔	基盤研究A1	複断面河川の水利と植生の影響に関する総合研究	分担	8	3,600
				9	2,700
				10	2,200
山下隆男	基盤研究C2	陸上地形および表面粗度を考慮した高潮の数値予知法に関する研究	代表	7~8	1,650
山下隆男	国際学術研究 (学術調査)	日・欧・米における海岸侵食制御工法の相互評価に関する研究	代表	8~9	3,300
山下隆男	基盤研究C2	日本海沿岸のソフトビーチの変形予測に関する研究	代表	9~10	3,000
山下隆男	基盤研究B2	高周波ADCPを用いた海浜流、漂砂量ベクトルの鉛直分布計測装置の開発	代表	9~10	9,900
山下隆男	特別研究員奨励費	浅海域における波浪と漂砂に関する研究	代表	9~10	2,200
山下隆男	基盤研究A2	実時間的な台風風災害予測法の研究	分担	6~10	15,000
山下隆男	基盤研究B2	地盤一構造物一流体系の非線形振動解析コードの開発と大水深防波堤の耐震性診断	分担	8~9	5,100
山下隆男	基盤研究A1	河口デルタの縮小に対する海岸侵食制御法とその適用に関する研究	分担	7~9	10,300
山下隆男	国際学術研究 (共同研究)	洪水および地形変動による災害とその防御に関する研究	分担	6~8	
山下隆男	国際学術研究 (共同研究)	洪水、土砂流出および海岸侵食による災害とその防御に関する研究	分担	9~10	
上野鉄男	基盤研究B2	流れの可視化と画像処理による開水路乱流の三次元計測法に関する研究	代表	8	1,300
				9	600
				10	600
上野鉄男	基盤研究C2	衛星画像による大規模河川の河道変動に関する研究	分担	8	1,300
				9	600
				10	600
武藤裕則	奨励研究A	低水路が蛇行する複断面開水路流れの水利に関する研究		10	1,400
				11	500
芹沢重厚	地域連携推進研究 費	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	分担		
加藤 茂	奨励研究A	風の影響を考慮した3次元広域海浜流モデルの開発とその適用に関する研究	代表	11	1,100
				12	1,100
島田充彦	基盤研究B2	高封圧高温下の岩石の変形破壊実験による地殻のダイナミクスと地震発生機構の研究	代表	9	6,600
				10	3,100
				11	1,300
大志万直人	総合研究A	日本列島下の3次元電気伝導度構造と地殻活動の研究	分担	5~7	17,100
大志万直人	基盤研究	内陸型地震発生域上面周辺の電気伝導度構造の研究	分担	7~8	
大志万直人	国際学術研究 (共同研究)	北アナトリア断層帯西部域の地震活動予測に関する総合的研究	分担	7~8	
大志万直人	国際学術研究 (共同研究)	北アナトリア断層帯における活断層深部構造の研究	分担	11~12	
澁谷拓郎	奨励研究A	レーザ関数インバージョン法によるオーストラリア大陸地殻の地震波速度構造の研究	代表	8	1,000
澁谷拓郎	奨励研究A	近畿北部 中国地方東部下のアサイスマックスラブ	代表	9	900
				10	900
澁谷拓郎	基盤研究B	レーザ関数アレー解析による日本列島下の地殻・上部マントル地震波不連続面の研究	分担	11~13	
澁谷拓郎	創成的基礎研究	海半球ネットワーク：地球内部を覗く新しい目	分担	8~12	
渡辺邦彦	基盤研究C2	漏洩電流ベクトルを用いた地殻ブロック境界の特徴的挙動の研究	代表	7	900
				8	400
				9	500
柳谷 俊	基盤研究B1	雑音にうもれたAE波の時系列解析による検出	代表	7	900
				8	700
柳谷 俊	基盤研究C1	破壊とすべりの過程で発生するAEのスケーリング則の確立	代表	7	1,300
				8	800
柳谷 俊	基盤研究B2	岩盤の微小応力変化をモニターするための複合システムの開発		10	3,400
				11	3,400
橋本 学	基盤研究C2	断層系の力学的相互作用が作り出す地震活動の多様性に関する研究	代表	10	900
				11	600
				12	500
				13	1,000
橋本 学	基盤研究B	中央構造線断層帯の深部構造と現在の運動様式に関する測地学的研究	分担	10	3,300
				11	3,300
				12	3,300
梅田康弘	基盤研究B	兵庫県南部地震の構造物被害における衝撃的破壊の究明	分担	10	8,800
				11	4,800
中村佳重郎	一般研究B	脈動観測資料と重力データの併合処理による、都市域基盤構造の研究	分担	11	1,800
神田 径	奨励研究A	地殻内比抵抗変化自動測定システムの開発	代表	10	2,000
				11	100
池淵周一	基盤研究B2	短時間降雨予測手法に基づく洪水制御システムの開発	代表	11	8,700

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
池淵周一	一般研究活動B	水文循環モデルのスケールアップ・ダウンと水資源システムへの応用	代表	6	6,700
				7	1,000
池淵周一	総合研究A	水文量の時空間分布特性に基づくマクロ水門モデルの構築	分担	6	480
				7	480
池淵周一	試験研究B→ 基盤研究A2	山地及び都市の局地豪雨の生起特性解析と予知	代表	7	9,300
				8	1,300
				9	1,200
池淵周一	総合研究A→ 基盤研究B1	平成6年度渇水の気象・水文学的検証と渇水時のリスクマネジメントに関する研究	代表	7	3,000
				8	1,100
池淵周一	重点領域研究1→ 特定領域研究	衛星データの4次元同化解析とモデルによる気候システム変動の研究	分担	7	3,300
				8	2,600
				10	2,600
池淵周一	国際学術研究	東南アジア・太平洋地域の流域水利用実態およびデータ環境の国際共同調査	代表	9	18,800
池淵周一	国際学術研究	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水主現環境に関する国際水文学的研究	代表	10	5,800
				11	5,200
池淵周一	基盤研究B2	酸性雪の長距離輸送とそれが流出過程に及ぼす影響に関する研究	代表	10	7,000
				11	2,700
中北英一	萌芽的研究	一般システム論をベースにした豪雨年・渇水年ペアの出現、特性の統一論的解析	代表	11	1,100
中北英一	基盤研究C2	降雨の3次元構造を考慮したレーダを用いた地上雨量の推定	代表	8	2,100
中北英一	一般B	水文循環モデルのスケールアップ・ダウンと水資源システムへの応用	分担	7	1,000
中北英一	試験B	レーダ情報の標準化と降雨の時空間分布に関する研究	分担	7	2,240
				8	1,900
中北英一	基盤研究B1	1998年南東北・北関東の集中豪雨災害に関する調査研究	分担	10	254
中北英一	基盤研究B1	ネットワーク分散型降水レーダデータベースの構築と利用に関する研究	分担	11	500
中北英一	基盤研究B1	平成6年度渇水の気象・水文学的検証と渇水時のリスクマネジメントに関する研究	分担	7	3,000
				8	1,100
中北英一	基盤研究B2	短時間降雨予測手法に基づく洪水制御支援システムの開発	分担	11	8,700
中北英一	総合A	琵琶湖流域の水・熱循環過程解明に向けた総合研究と衛星同期、共同観測-琵琶湖プロジェクト-	代表	7	5,900
				8	3,800
				9	3,200
中北英一	総合A	水文量の時空間分布特性に基づくマクロ水文モデルの構築	分担		
中北英一	基盤研究A2	山地および都市の局地豪雨の生起特性解析と予知	分担	7	9,300
				8	1,300
				9	1,200
中北英一	基盤研究A1	衛星同期集中/常時共同観測による水・熱循環過程のスケール			
中北英一		効果解明に関する総合的研究-琵琶湖プロジェクト第2ステージ	代表	10	18,200
				11	8,900
				12	4,800
中北英一	基盤研究A1	大阪周辺域における強風・落雷・豪雨の短時間高精度測定と予測システムの構築	分担	10	2,900
中北英一	国際学術	東南アジア・太平洋地域の流域水利用実態及びデータ環境の国際共同調査	分担	9	18,800
中北英一	国際学術	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水資源環境に関する国際水文学的研究	分担	10	5,800
				11	5,200
田中賢治	基盤研究A1	衛星同期集中常時共同観測による水・熱循環過程のスケール効果解明に関する総合的研究-琵琶湖プロジェクト第2ステージ	分担	10	18,200
				11	8,900
				12	4,800
田中賢治	奨励研究A	陸面水文過程における都市域モデルの開発	代表	9	1,700
				10	500
田中賢治	奨励研究A	中国大陸農耕地における水・熱収支の推定と大気陸面相互作用	代表	11	1,700
				12	500
田中賢治	基盤研究B1	メソスケール大気・陸面システムにおける水循環過程の総合解析	分担	8	2,600
				9	2,400
田中賢治	国際学術研究	湿潤アジアにおける水循環の天気陸面過程と水資源・水災害の変動の研究	分担	10	14,200
				11	10,700
田中賢治	特定領域研究B2	亜熱帯・温帯エネルギー・水循環過程	分担	11	35,100
				12	28,100
田中賢治	基盤研究C2(一般)	分布型流出モデルによる実時間洪水予測手法の構成に関する研究	分担	11	2,200
				12	1,200
田中賢治	基盤研究B2(展開)	地域防災計画に基づく洪水災害対応シミュレーションシステムの開発	分担	11	3,800
				12	1,300

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
大石 哲	奨励A	情報工学的推論手法を用いた局地降雨予測手法の開発に関する研究	代表	7	900
大石 哲	奨励A	地表面過程が局地豪雨に与える影響に関する観測および数値実験的研究	代表	10	1,300
				11	1,000
大石 哲	基盤研究C2	降雨の3次元構造を考慮したレーダを用いた地上雨量の推定	分担	8	2,100
大石 哲	一般B	水文循環モデルのスケールアップ・ダウンと水資源システムへの応用	分担	7	1,000
大石 哲	基盤研究B1	平成6年度渇水の気象・水文学的検証と渇水時のリスクマネジメントに関する研究	分担	7	3,000
				8	1,100
大石 哲	基盤研究B2	酸性雪の長距離輸送とそれが流出過程に及ぼす影響に関する研究	分担	10	7,000
				11	2,700
大石 哲	基盤研究B2	短時間降雨予測手法に基づく洪水制御支援システムの開発	分担	11	8,700
大石 哲	基盤研究A2	山地および都市の局地豪雨の生起特性解析と予知	分担	7	9,300
				8	1,300
				9	1,200
大石 哲	基盤研究A1	衛星同期集中/常時共同観測による水・熱循環過程のスケール効果解明に関する総合的研究－琵琶湖プロジェクト第2ステージ	分担	10	18,200
				11	8,900
				12	4,800
大石 哲	国際学術	東南アジア・太平洋地域の流域水利用実態及びデータ環境の国際共同調査	分担	9	18,800
大石 哲	国際学術	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水資源環境に関する国際水文学研究	分担	10	5,800
				11	5,200
岡 太郎	試験研究B2	地下ダム設計手法	分担	7	2,600
岡 太郎	基盤研究B2	地下ダムの設計・施工・運用管理法に関する研究		10	6,100
				11	4,100
				12	2,200
岡 太郎	基盤研究A2	バングラデシュ国における氾濫湖の消長に関する気象・水文学的研究		11	5,100
				12	4,600
				13	4,800
城戸由能	奨励研究A	都市河川環境修復事業の水質改善効果の評価に関する研究	代表	7	900
城戸由能	一般C	都市水循環における水量・水質の需要と負荷の発生構造とその制御方法に関する研究	分担	7	60
				8	600
城戸由能	基盤研究B	社会資本整備に関わるLCA手法の体系化と環境評価の総合化	分担	8	400
				9	400
				10	250
城戸由能	奨励研究A	受水域の水質影響を考慮したポイント・ノンポイント負荷の解析・評価	代表	10	1,600
				11	1,100
浜口俊雄	奨励研究A	実用的な地下ダム湖の管理運営手法の開発	代表	9	1,400
				10	700
				12	1,500
				13	(予定)700
小尻利治	基盤研究B1	システムインテリジェンスを備えたマルチメディア型貯水池操作支援システムに関する研究	代表	7	2,900
				8	800
小尻利治	基盤研究B2	時・空間パターン認識による日本全国規模渇水の水文学的特徴抽出とその対策	代表	8	2,600
				9	900
小尻利治	国際学術研究	東南アジア・太平洋地域の流域水利用実態およびデータ環境の国際共同調査－持続的開発に向けて	分担	9	26,078
小尻利治	国際学術研究	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水資源環境に関する国際水文学研究	分担	10	5,800
				11	5,200
				12	5,000
小尻利治	基盤研究B2	展開、バーチャルリアリティによる貯水池の高水・低水連続操作支援システムのモデル化	代表	10	3,300
				11	1,300
				12	1,100
友杉邦雄	国際学術研究	東南アジア・太平洋地域の流域水利用実態およびデータ環境の国際共同調査	分担	9	
河田恵昭	研究成果公開促進費	自然災害資料データベース	分担	7	7,350
				9	7,350
				10	6,610
				11	7,270
河田恵昭	試験研究B1	巨大都市災害による人的被害の評価方法の開発	代表		2,400
河田恵昭	総合研究A	北海道南西沖地震による津波とその防災手法に関する研究	分担	6	5,000
				7	4,100
					800
河田恵昭	総合研究A	災害科学に関連する各種データベースの総合化に伴う効果的な活用に関する研究	代表	7	5,700
				8	5,600
河田恵昭	総合研究A	自然災害科学の基本課題の解決への総合的研究	分担	6	118,000
				7	12,500

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
河田恵昭	一般研究B	危機管理を考慮した防災システムに関する研究	代表	7	2,800
				8	2,100
河田恵昭	重点領域研究1	過密空間における震災時の人間行動	分担	8	2,000
				9	2,000
				10	2,000
河田恵昭	基盤研究B1	総合防災学の理論構築へ向けての阪神・淡路大震災の実証的検討	分担	8	2,700
河田恵昭	基盤研究B1	災害時の空間総合管理システムの開発	代表	8	4,000
				9	1,800
河田恵昭	基盤研究A2	防災地理情報システムを用いた危機管理と被害予測手法の開発研究	代表	8	24,000
				9	9,200
				10	4,000
河田恵昭	基盤研究B2	プレート境界型巨大地震災害に対する広域危機管理システムに関する研究	代表	9	5,700
				10	2,800
				11	2,700
河田恵昭	基盤研究C2	バーチャルリアリティ技術を用いた地震後災害過程シミュレーション	分担	9	3,100
河田恵昭	国際学術	都市巨大地震災害の社会科学研究	分担	10	3,800
				11	3,200
河田恵昭	基盤研究B1 (突発災害)	1998年パプアニューギニアの北西部沿岸域の津波災害に関する調査研究	代表	10	5,600
河田恵昭	特定領域研究B2	都市地震災害過程のモデル化と総合的な損失の定量化	代表	11	5,500
林 春男	研究成果公開促進費	自然災害資料データベース	分担	7	7,350
				9	7,350
				10	6,610
				11	7,270
林 春男	総合研究A	リアルタイム災害把握のための地震動モニタリングシステムの開発	分担	7	100
林 春男	総合研究A	災害科学に関連する各種データベースの総合化に伴う効果的な活用に関する研究	代表	7	5,700
				8	5,600
林 春男	総合研究A	災害復旧時の防災組織のロジスティクス・マネジメント	代表	7	2,400
				8	2,000
林 春男	基盤研究B1	防災GISの開発による地震災害情報システムの構築に関する研究	分担	9	1,400
林 春男	一般研究B	危機管理を考慮した防災システムに関する研究	代表	7	2,800
				8	2,100
林 春男	基盤研究B1	液状化時流出水の特性解析と液状化センサーの開発	分担	8	100
林 春男	重点領域研究1	過密空間における震災時の人間行動	分担	8	2,000
				9	2,000
				10	2,000
				11	1,500
林 春男	基盤研究B1	総合防災学の理論構築へ向けての阪神・淡路大震災の実証的検討	分担	8	2,700
林 春男	基盤研究B1	災害時の空間総合管理システムの開発	代表	8	4,000
				9	1,800
林 春男	基盤研究A2	防災地理情報システムを用いた危機管理と被害予測手法の開発研究	分担	8	24,000
				9	9,200
				10	4,000
林 春男	基盤研究A1	災害による「こころの傷」のケア・トレーニング・プログラムの開発	代表	8	3,500
				9	2,700
				10	2,500
林 春男	基盤研究B2	プレート境界型巨大地震災害に対する広域危機管理システムに関する研究	分担	9	5,700
				10	2,800
				11	2,700
林 春男	基盤研究C2	バーチャルリアリティ技術を用いた地震後災害過程シミュレーション	代表	9	3,100
林 春男	基盤研究B1	災害と犯罪（阪神大震災後の犯罪被害の実態と人々の不安感）	分担	10	5,816
				11	3,400
				12	3,900
林 春男	国際学術	都市巨大地震災害の社会科学研究	代表	10	3,800
林 春男	基盤研究B2	都市巨大地震災害の社会科学研究	代表	11	3,200
林 春男	基盤研究B1	都市の死に関する包括的評価手法の研究	分担		1,900
				11	300
林 春男	特定領域研究B2	マルチメディアによる地震災害の事後対応過程の検討	分担	11	5,500
林 春男	特別研究員奨励費	都市直下地震の予知と防災	代表	11	1,000
田中哮義	国際学術	都市巨大地震災害の社会科学研究	分担	10	3,800
田中哮義	基盤研究B2	都市巨大地震災害の社会科学研究	分担	11	3,200
田中哮義	基盤研究B1	実時間災害対応情報ネットワーク構築に関する研究	分担	10	6,900
				11	1,700
				12	1,000

研究者名	研究種目	課題名		平成	年度別金額
田中哮義	特定領域研究A2	市街地火災延焼予測の物理的モデルの開発	代表	11	2,500
田中哮義	特定領域研究B2	都市地震災害過程のモデル化と総合的な損失の定量化	分担	11	5,500
田中哮義	基盤研究B2	市街地火災に於ける風下側の熱気流性状の予測に関する研究	代表	11	8,800
赤松純平	一般研究B	脈動観測資料と重力データの併合処理による都市域基盤構造の研究	代表	6	2,100
				7	800
				8	900
赤松純平	総合研究A (突発災害)	1996年中国雲南省麗江地震とその被害に関する調査研究	代表	7	3,200
赤松純平	基盤研究B1	防災GISの開発による地震災害情報システムの構築に関する研究	分担	7	2,300
				8	2,700
				9	1,400
赤松純平	基盤研究B2	地理情報システムを利用した都市建築物の地震被害分布即時評価法の確立	分担	8	2,100
				9	1,800
赤松純平	国際学術研究	都市域の地震危険度予測と検証に関する日中共同研究	分担	9~10	22,300
赤松純平	基盤研究A1	地域の地盤環境に起因する地震危険度評価のための微動の活用に関する応用研究	分担	9~12	23,500
西上欽也	基盤研究C	西南日本内帯の活断層不均質構造	代表	7~9	2,100
西上欽也	萌芽	活断層の固着を検出する新手法	分担	11	
西上欽也	基盤研究A	野島断層注水実験	分担	11~12	14,700
北原昭男	奨励研究A	地震被害を受けた建築空間における生活困窮・経済損失の評価に関する研究	代表	7	1,000
北原昭男	奨励研究A	建築空間の地震時安全性に関する総合的評価手法の構築	代表	9	1,300
				10	800
高橋智幸	奨励研究A	歴史津波を解析するための津波堆積物の評価手法の開発	代表	12	1,600
				13	500
高橋智幸	奨励研究A	津波の遡上に伴う土砂堆積の実験 -歴史津波の規模推定のための指標を求め-	代表	9	1,700
				10	500
高橋智幸	奨励研究A	沿岸部での津波に対する危険度評価方法の開発	代表	8	1,100
高橋智幸	国際学術研究	堆積学的アプローチによる歴史津波の検証手法の開発	分担	7	2,400
				8	2,100

付表6.10 公募研究費

(金額単位：千円)

研究者名		研究種目	研究課題名		実施年度	金額
亀田弘行	共同研究	産学連携経費	防災と都市診断システム及び地理情報システムの開発	分担	11	7,737
亀田弘行	公募研究	関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	直下地震による複合災害のGIS多重分析と都市防災システムの性能規範に関する研究	代表	9	2,000
亀田弘行	公募研究	関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	直下地震による複合災害のGIS多重分析と都市防災システムの性能規範に関する研究	代表	10	1,400
岡田憲夫	共同研究	日建設計	プロジェクト・リスクの評価研究	分担	10	500
					11	400
岡田憲夫	共同研究	理化学研究所	防災都市診断支援システム及び地理情報システムの開発	代表	11	7,989
					12	9,100
岡田憲夫	公募研究	科学技術融合振興財団	複合災害下における都市のライフラインのリスクマネジメントに関するゲーミングシミュレーション	代表	8	1,200
岡田憲夫	公募研究	関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	複合災害の発生下における緊急水利用系ライフラインに関するリスクマネジメントー阪神・淡路大震災を対象としてー	代表	8	300
					9	800
岡田憲夫	公募研究	トヨタ財団	過疎地域における住民自治力の自発的成長システムに関する実践的研究(平成11年11月～13年10月)	分担	第1回	850
					第2回	950
					第3回	275
					第4回	925
岡田憲夫	公募研究	近畿建設協会	道路ネットワークのリダンダンシィ特性の評価法に関する研究(平成10年9月～11年3月)	代表		1,000
岡田憲夫	公募研究	河川環境管理財団	河川的环境保全を含む共同整備事業の費用配分制度に関する研究	代表	11	1,000
					12	600
岡田憲夫	公募研究	関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	安全性診断を考慮した都市インナー地域における木造老朽家屋の計画的更新に関する研究	分担	11	2,000
					12	1,200
鈴木祥之	公募研究	日本建築センター研究助成金	都市の時間的変遷を考慮した建築構造物群の地震被害推定に関する研究	分担	6	2,000
鈴木祥之	公募研究	総合住宅研究助成金	木造住宅の震災被害シミュレーションと耐震性の向上に関する研究ー兵庫県南部地震被災地の詳細調査を通してー	分担	8	2,800
鈴木祥之	公募研究	第一住宅建設協会研究助成	木造建物の耐震性向上のための社会システムの改善に関する調査研究	分担	9	1,000
藤原悌三	公募研究	日本建築センター研究助成	都市の時間的変動を考慮した建築構造物群の地震被害推定に関する研究	代表	7	
藤原悌三	公募研究	第一住宅建設協会研究助成	木造建物の耐震性向上のための社会システムの改善に関する調査研究	代表	10	
藤原悌三	公募研究	住宅総合研究財団	木造住宅の震災被害シミュレーションと耐震性の向上に関する研究	代表	8	
多々納裕一	共同研究	日建設計	プロジェクト・リスクの評価研究	分担	10	500
					11	400
多々納裕一	共同研究	理化学研究所	防災都市診断支援システム及び地理情報システムの開発	分担	11	7,989
					12	9,100
多々納裕一	公募研究	関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	安全性診断を考慮した都市インナー地域における木造老朽家屋の計画的更新に関する研究(11～12年度)	代表	11	2,000
					12	1,200
田中 聡	公募研究	関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	災害発生後の緊急期における被害把握システムの開発(9～10年度)	代表	9	2,100
					10	1,400
入倉孝次郎	公募研究	日本学術振興会国際研究集会開催経費	第2回表層地質が地震動に及ぼす影響に関する国際シンポジウム(平成10年度12月1～3日)	代表	10	2,100
中島正愛	公募研究	鹿島財団研究助成	直下型地震において免震構造物が被る最大変形とその予測(平成10～11年)	代表		4,000
佐々恭二	共同研究		地盤災害の抑止技術の開発(平成11-15年度)	代表	11	3,428
佐々恭二	公募研究	地震時地盤崩壊災害発生機構		代表	8	3,000
三村 衛	公募研究	島津科学技術財団	RIコーンの開発と地盤工学への適用に関する研究助成	代表	8	1,100

研究者名		研究種目	研究課題名		実施年度	金額
竹内篤雄	共同研究		単孔式加熱型流向流速計の開発に関する共同研究	代表	8	100
					9	200
					10	150
寶 馨	共同研究	民間等との共同研究(B)、宇宙開発事業団	河川流域における高分解能情報の抽出とその水文学的応用		8	4,191
					9	3,666
					10	2,278
寶 馨	公募研究	(財)河川情報センター	日本の河川流域におけるHydroGISの構築に関する研究	代表	7	1,880
寶 馨	公募研究	(財)河川情報センター	河川水文データベースの構築とそのネットワーク共用化に関する研究開発	代表	8	2,900
寶 馨	公募研究	(財)河川環境管理財団、河川整備基金助成	河川と社会の365日の連携を目指した情報共有化のあり方に関する研究	代表	11	1,000
寶 馨	公募研究	(財)河川情報センター	Internetを活用した安価な雨量観測・情報伝達システムの開発に関する研究	代表	11	2,300
井上和也	公募研究	河川情報センター研究開発助成	都市水害の予測法の高度化とその避難システムへの応用	代表	10	2,250
中川 一	公募研究	(財)砂防・地すべり技術センター研究開発助成金	土石流および泥流氾濫ハザードの規模予測に基づく避難計画の設定に関する研究	代表	7	2,600
中川 一	公募研究	(財)河川情報センター研究開発助成	都市水害の予測法の高度化とその避難情報システムへの応用	分担	10	2,250
立川康人	公募研究	(財)河川情報センター研究開発助成	河川水位実時間予測手法の構成に関する研究	代表	9~10	1,900
戸田圭一	公募研究	河川環境管理財団河川整備基金助成事業	地下河川の合理的設計法に関する研究	分担	7	(代表者一括経理)700
					8	(代表者一括経理)700
戸田圭一	公募研究	河川情報センター研究開発助成	都市水害の予測法の高度化とその避難情報システムへの応用	分担	10	(代表者一括経理)2250
間瀬 肇	公募研究	(社)近畿建設協会研究開発助成	沿岸波浪の変形予測	代表		1,000
間瀬 肇	公募研究	(財)ウェスコ土木技術振興基金 研究費助成	沿岸域における高波浪の数値予測技術の開発		8	600
間瀬 肇	公募研究	(財)鴻池財団 研究奨学金	災害の防止並びに軽減に関する研究助成	代表		1,000
牛山素行	公募研究	河川情報センター平成11年度研究助成	Internetを活用した普及型雨量観測・情報伝達システムの開発に関する研究	分担	11	2,300
牛山素行	公募研究	砂防・地すべり技術センター平成12年度研究助成	Internetによる記録的豪雨発生状況のリアルタイム表示システム開発に関する研究	代表	12	1,800
植田洋匡	公募研究	旭硝子財団	プラハの大気汚染と効果的な削減対策	代表	6	11,000
					7	5,000
					8	3,800
植田洋匡	公募研究	住友財団	東アジア地域の酸性雨原因物質の動態および長距離移動	分担7名	9	
末峯 章	公募研究	(財)砂防・地すべり技術センター, 砂防・地すべり技術センター研究開発助成	結晶片岩地すべりにおける変形と土中土圧に関する研究(平成10年6月~11年4月)	代表	10	2,800
末峯 章	公募研究	(財)河川整備環境財団, 河川整備基金	地すべり地における排水ボーリングの排水量の実態解明と林道建設の影響調査(平成11年6月~12年5月)	代表	11	1,000
石原和弘	共同研究	区分A	火山噴火による航空機災害の防止と軽減に関する研究	代表	6	4,138
					7	1,861
					8	1,246
井口正人	共同研究		火山噴火による航空機災害の防止と軽減に関する研究(6~8年)	分担	7	1,792
					8	1,022
神田 径	共同研究	受託研究	全マントルとプレート沈み込み帯の3次元電磁気構造のシミュレーションに関する研究	分担	10	1,448
					11	1,240
中北英一	共同研究	宇宙開発事業団			10	3,272
					11	2,164
小尻利治	公募研究	河川情報センター研究助成	レーダ雨量情報をベースとした短時間降雨量・流出量予測とその貯水池操作支援への応用	代表	10	1,500

研究者名		研究種目	研究課題名		実施年 度	金額
小尻利治	公募研究	河川環境整備財団	地球温暖化を考慮した計画降雨・流量の決定と流域管理計画の策定	代表	11	900
西上欽也	公募研究	石原藤次郎研究奨学金(防災研究会)	活断層診断手法開発	代表	8	500
西上欽也	公募研究	カシオ科学振興財団	ガイド波・散乱波シュミレーション	代表	11	1,000
高橋智幸	公募研究	(財)岩手県学術研究振興財団助成金	津波により運搬される土砂の堆積および停止条件に関する研究	分担	10	720
					11	930

付表6.11 大型設備一覧

部門・センター	設置年度		備考	
①総合防災研究部門	7	建物応答制御装置		
	7	分散並列型強震応答実験装置		
②地震災害研究部門	7	加速式衝撃せん断試験システム		
③地盤災害研究部門	62	遠心力載荷装置		
	7	遠心力動の実験設備		
	7	斜面防災調査施設		
	7	地震時地すべり再現試験機		
④大気災害研究部門	54~55	境界層風洞実験装置		
	元	人工衛星受画装置		
	7	有毒ガス拡散予測システム		
⑤災害観測実験センター	58	水理実験制御解析システム		
	5	水理画像処理システム		
	7	水理構造物3次元強震動実験装置・計測器		
⑥地震予知研究センター	56~58	地殻活動総合観測システム		
	57~58	地震予知データ流通設備		
	58~59	移動観測班設備		
	60	地震観測テレメタリング設備		
	62	超高性能地震波観測システム		
	62	地殻活動総合観測線設備		
	62	地震波テレメータ装置		
	元	内陸地震総合観測設備		
	59	地震データ処理交換システム	理学部より	
	62	岩石構造解析システム	〃	
	62	岩石破壊実験装置	〃	
	63	地震波形データ解析システム	〃	
	2~4	地震データ・インテリジェント化設備		
	5	地震波形データ総合解析装置		
	5	多点同時地震観測システム		
	5	地震総合解析システム		
	5	総合観測システム		
	5	岩石破壊実験データ収録装置		
	6~7	インテリジェント化高精度地震観測データ伝送システム		
	6	GPS地殻変動観測システム		
	7	活断層帯電磁気の構造探査装置		
	7	テレメタリング地震観測システム		
	7	地震観測データ交換・流通関係設備		
	8	衛星通信テレメタリング地震観測設備		
	⑦火山活動研究センター	56	赤外線走査装置	
		54~58	広域火山観測用データ集録装置	
58		自動データ高速処理制御装置		
元		特定火山集中総合観測解析装置		
2~3		火山活動総合リアルタイム判定処理設備		
4		火山活動総合判定装置		
5		霧島火山帯変動観測装置		
5		火山岩岩石磁気測定装置		
6		火山帯複合観測データ取込装置		

付表6.12 大型設備等を使つての共同研究一覧

研究者名		研究施設(設備)名	研究課題	実施機関	役割	期間
鈴木祥之	国内	5層鋼構造実大試験架構	大地震を対象としたインテリジェント制震構造システムの開発	日本学術振興会	研究分担	平成7年度
鈴木祥之	国内	建物応答制震装置	建築構造物の制震システムに関する理論的・実験的研究	京都大学防災研究所	代表者	平成9年6月～11年3月
鈴木祥之	国内	強震応答実験装置	建築構造物の制震システムに関する理論的・実験的研究	京都大学防災研究所	代表者	平成9年6月～11年3月
鈴木祥之	国内	強震応答実験装置	伝統軸組木造の実大振動実験	日本建築学会特別研究委員会、京都大学防災研究所	委員長	平成12～13年度
鈴木祥之	国内	強震応答実験装置	2階建軸組木造住宅の実大振動実験	日本建築学会特別研究委員会、京都大学防災研究所	委員長	平成12～13年度
鈴木祥之	国際		Joint US-Japan Workshop on Structural Control Program for Structural Control Test Facility	日本学術振興会	研究分担	平成8年3月14～15日
中島正愛	国際		高知能建築構造システムの開発に関する日米共同研究	建設省	WG主査	平成10～14年
丸山 敬	国内	大気海洋システム解析実験設備、地球大気動態シミュレーション装置	平成11年度応用力学研究所共同研究:課題番号11A0-7;大気境界層に関する観察、室内実験及び数値解析による総合的研究	九州大学応用力学研究所	研究代表者	平成11年度
関口秀雄	国内	遠心力載荷装置	ウォータフロント施設ー地盤系の耐震補強に関する研究	京都大学防災研究所	代表者	平成10～12年
伊藤 潔	国内	茂住断層	茂住断層における観測隋道ー地震フロンティア・地下構造フロンティア	核燃料サイクル機構東濃地科学センター	地震活動に関する研究担当	平成7～12年
池淵周一	国内		移動式Xハンドレーダーを用いた大台ヶ原、九頭竜川、黒部川流域の降水観測			
西上欽也	国内	野島断層ポアホール・観測施設	野島断層解剖計画	京都大学防災研究所		平成7～12年

付表 6.13 図書室(資料室)に関するデータ

		平成 10 年度				平成 11 年度			
		学生	教職員	その他	合計	学生	教職員	その他	合計
貸出利用状況	貸出者数	286	137	58	481	173	114	101	388
	図書・雑誌等貸出冊数	398	290	98	786	245	185	134	564
文献複写利用状況	文献複写利用者数	97	67	53	217	127	78	64	952
	文献複写枚数	2,983	1,049	855	4,887	4,867	2,458	1,567	8,892

		平成 10 年度			平成 11 年度		
		和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
年間冊数 受入図書	購入	70	178	248	43	201	244
	寄附・その他	0	0	0	0	0	0
	合計	70	178	248	43	201	244
年間雑誌購読種類数		89	191	280	94	141	235
年間購入新聞種類数		1	0	1	1	1	2

付表 6.14 データベース

部門・センター名	データベース名	データ公開ホームページ等
水災害研究部門	水災害オンライン情報データベース	http://fmd.dpri.kyoto-u.ac.jp/floodInfo/floodInfo.html
地震予知研究センター	高感度微小地震データベース	http://www.rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp
	地殻変動連続観測データベース	
	GPS 観測データ	
火山活動研究センター	山頂噴火自動警報システム	http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/~kazan/default.html
	桜島の火山性地震・爆発のデータベース	
	噴火ビデオ	
巨大災害研究センター	SAIGAI データベース	http://www-dpri.kyoto-u.ac.jp